京城日報 朝刊
新嘗祭

洪澤地區に殲滅の火蓋
共匪新四軍主力を膺懲
早くも青陽鎮、半城を拔く

【洪澤前線〇〇にて廿一日同盟】前線本部發表＝わが各部隊は十五日未明一齊に蘇淮地區の洪澤湖周邊の敵共匪新四軍に對し殲滅の火蓋を切り隨所に敵を捕捉殲滅、敵退路を完全に遮斷して包圍殲滅を完成、敵赤色牙城に猛攻を續行中

【洪澤前線〇〇廿一日同盟】淮南東部赤色區の擴大をはかりつつあつた新四軍主力を徹底的に膺懲、剿滅すべく十五日未明を期して一齊に行動を開始したわが陸軍部隊の精鋭は秋深き洪澤湖周邊地區に敵匪の包圍陣を形成隨所に敵を射弾して十六日には早くも敵第四師の前衛據點金鎮を攻略、さらに洪澤湖西岸に殺到敵司令部を陷れ十七日拂曉には第四師司令部所在地半城に突入し敵を急追して戰果を擴大中である

【洪澤前線〇〇廿一日同盟】わが陸鷲の精鋭は地上部隊に協力して潰走する新四軍に對し去る十五、六、七の三日間にわたり猛爆を敢行、洪澤湖畔赤色根據地に爆彈の雨を浴びせて大戰果を收めたが、さらにわが地上部隊の猛攻にさへ切れず舟を賴つて湖上に敗走を企てた敵船團を急襲、敵船二千數百艘に猛烈な急降下爆擊と機銃掃射を加へてその半數を擊沈し、敵大部隊を湖底に葬つた

敵、湖上で大混亂

【洪澤前線〇〇廿二日同盟】十五日以來洪澤湖周邊地區に展開しつつあるわが剿共作戰は陳毅麾下新四軍を潰滅に陷れる一方敵を洪澤湖畔の山地帶に驅逐その死命を制しつつあるが洪澤湖西岸湖畔部隊の猛擊に呼應して北進中であつた南岸進擊部隊は敵の退路を完全に遮斷して十七日拂曉、迫り來る敵軍を邀擊これに殲滅的打擊を與へた、一方これと呼應して洪澤湖東南地區の敵第三師に對して猛攻を開始したわが有力部隊は十八日敵根據地淡集および鹽集の敵施設を覆滅し敵を追つて湖岸に殺到した、かくて敵主力軍は退路を失ひ船をかつて湖上を右往左往大混亂を呈してゐる

遺棄屍四百
山東の共匪擊滅

【濟南廿二日同盟】山東省東部の平度、掖縣の兩縣境附近は支那側治安軍と協同、同縣境周邊に蟠居蠢動する共匪約七百を剿滅すべく十二日拂曉行動を開始、同縣城東方約廿二キロ附近においてこれを捕捉猛擊を加へ、敵旅長以下多數を捕虜とするほか左の戰果を收めた
敵遺棄死體四百▲捕虜百八十一▲鹵獲品 重機關槍五、迫擊砲二その他多數

李仙州麾下の敵を捕捉殲滅

【渦河河畔〇〇廿二日同盟】遠く山東省に移駐北上を企圖せる蔣系正規軍李仙州麾下の敵九十二軍を安徽省北部渦河流域に捕捉殲滅すべく展開したわが山岡部隊は廿一日渦河北岸蒙城集附近に敵北上部隊の一部、第二十一師の主力約一千を捕捉、敵八十六團第三營長以下七名を捕虜

敵遺屍八千
北支軍十月中綜合戰果

【北京廿一日同盟】北支軍では廿一日華北における十月中の綜合戰果をつぎの如く發表した
北支軍發表（廿一日午後七時）北支軍十月中の綜合戰果左の如し
交戰回數千四百回、交戰敵兵力（延數）十六萬七千三百五十、遺棄死體八千二百八十九、捕虜七千八百六十五、主なる鹵獲品、迫擊砲十八、重輕機七十六、小銃六千二百四十一、彈藥百十四、手榴彈二萬四千三百三十六
なほ本月中における歸順數は山東省の第系軍一萬五千をはじめ二百五件の多數に達せり、また最近における歸順者の傾向は大東亜戰爭以來特に顯著なる事實にして最近數年間の歸順件數を示せば左の如し
昭和十四年三百四十件、同十五年四百七件、同十六年九百五十二件、同十七年二千百八十二件（但し十七年は十月末まで）すなはち本年の歸順件數は十月末にしてすでにこの數年間の合計の一倍半に達しあるはわが方の連續不斷の作戰と、軍、政、民を打つて一丸とする適切なる各種工作の飛躍的推進によるものなることは勿論なるも大東亜戰爭勃發以來敵側に對するわが方の大東亜新秩序建設の思想浸透による敵抗戰理論の動搖と抗戰意識の急激なる低下を如實に物語るものである

破格の恩命
神保軍屬に功五旭六

【東京電話】支那事變生存者海軍側第十六回論功行賞が廿三日午前零時內閣賞勳局ならびに海軍省から發表された、今回戰歿の光榮に浴した海軍側軍屬神保三郎氏をはじめ海軍人軍屬一千四十四名である、その中神保氏は支那事變中北支方面作戰に於て揚子江遡江進擊部隊、艦艇の水先案內として參戰し特に九江および漢江攻略戰には遡江進擊第一線部隊艦艇に搭乘し敵陣地よりの猛擊を排しつゝ機雷原の眞只中をその豐富なる經驗と卓越せる技術とをもつて適切に嚮導しこれを見事に征服し水路を誘導しまた漢江作戰遂行上遺憾なからしめその功により功五旭六勳金の軍屬としては破格の恩命に浴したものである

天皇陛下御親祭
畏し新嘗祭の御儀

【東京電話】新嘗祭の佳き廿三日宮中におかせられては畏くも天皇陛下御親祭のもとに夕暮より翌曉にかけて新穀をはじめ酒、海、山の神饌を皇祖神祇に御親供御親ら聞召させ給ふ新嘗祭の重き御儀を執行はせられる、この日夕闇こめる午後五時ごろ庭燎明々と燃ゆるうちに御儀は進められ御在京各皇族殿下をはじめ奉り文武顯官ら神嘉殿前庭の幄舍に參列、天皇陛下には御羽の御袍、御白の御祭服を召させられて午後六時神嘉殿に出御あらせられ、かくて陛下には御親ら御撰、新穀、白酒、黑酒、海、山の神饌を御親供の御後恭しく御拜禮、御告文を奏せられ、終つて御親らも新穀を聞召され、約二時間にわたる重き御儀を終へさせられて午後八時過ぎ一旦入御、午後十一時再び神嘉殿に出御あらせられ廿四日の早曉にかけて曉の御儀を御親祭遊ばされる、なほこの日伊勢神宮へは勅使として掌典伊藤康彌公を參向奉幣せしめられる

尊皇攘夷の血戰
アジヤ建設の理想
太平洋を太日本洋と呼べ
奥村次長放送

【東京電話】奥村情報局次長は廿二日夜日本青年館における第廿二回青年記念日全國奉戴記念式に臨み午後七時廿分より『尊皇攘夷の血戰』と題して講演を行ひ、內地及び大東亜共榮圏各地に中繼放送されたが、その要旨は左の如くである【寫眞＝奥村情報局次長】

本日　天皇陛下さきに東宮におはしましし頃賜りましたる令旨奉戴二十二周年記念日を迎へ、全國千五百萬人の青少年等つて一層の御奉公を誓ひ、大東亜戰爭完遂のため粉骨碎身するの決意を披瀝し宏大無邊なる大御心に副ひ奉らんとして、ここに記念式を舉行せられたるは戰時下洵に慶目すべき出來事であつて、大日本青年の心からなる誓ひたると共に、轟く大東亜各地域の青少年にとりても、偉大なる激勵であると確信する、わが國においてはこれまで青年は第二の國民であるとか、將來の日本を背負ふ國民であるとかいはれて來たが、これは明かに間違ひである、私は敢て叫ぶ、青年は第一の國民である

國民中の第一線主力部隊で現在の日本の運命を双肩に擔へる責任者であると、工場において鑛山において血みどろになつて働いてゐる者は誰か、農村において、田園において、率先して土を耕し食糧增產にいそしみつつある者は誰か、青年である、青年こそ國家の運命を決定する責任者である、大東亜戰爭は祖宗の遺業を恢弘し速かに禍根を芟除して東亜の安定を確保し、もつて帝國の光榮を保全するまで戰はれねばならぬのである、即ちこの戰爭は決して日本のみのためではない、全アジヤ十億の民族のためであり大東亜のための戰爭である

東洋制覇の野望

想へばアジヤの歷史は永くアジヤ人の歷史ではなかつた、それは西歐人の歷史であり、英米の歷史であつた、四百年の昔、バスコ・ダ・ガマが南阿弗利加の南端を迂回してアジヤの天地に船を進めて以來、大アジヤはスペイン人、オランダ人の支配する處となりやがてスペイン人、オランダ人はイギリス人のとつて代るところとなり、イギリスは印度を侵略し、マレーを侵略して次第にその爪牙を伸ばして東亜に迫つて參つた、即ち百年前、阿片戰爭に始まつて香港を奪取し、やがて揚子江流域を支配して支那全土を植民地化して終つたフランス亦これに倣ひ、ロシヤはシベリヤを攻略して北邊より支那に迫り尨大なる國土を掠めた、この時、アメリカは漸くイギリスよりの獨立を完成して次第に國力を整へつつあつたが、今や太平洋を渡つてアジヤの天地に侵略の魔手を伸ばして參つた、即ち支那侵略の野望を逞した彼等は遂に進んで日本を侵さんとしてイギリス、フランスは南よりロシヤは北より、アメリカは東より迫り來つたのである

嘉永六年の六月、ペルリが黑船四隻を率ゐて浦賀灣頭に現はれたのは、正しくこれである、當時日本の運命は風前の灯、累卵の危きにあつたのである、憂國の熱血に燃ゆる烈士、愛國の志士が天下を憂へて東奔西走したのはこの時であり平野國臣、橋本左內、眞木和泉、吉田松陰皆この時生命を捨てゝ、尊皇攘夷のために挺身し、遂に血を流したのである

神州日本の正氣

しかしながら神州日本の正氣は遂に國家打開の術なき幕府の頽廢を招來し、明治維新の大業は成り、茲に天皇の御親政が始まつた、かくて西歐の日本侵略の野望は一擊に粉碎し去つた、もしその時、日本の國論が攘夷一色なかりせばひとり日本の獨立が侵されたのみに止らず、アジヤは完全に西歐の侵略の下、植民地となり果て、永くその羈絆に繫がれたことは疑ふべくもない、青少年諸君はこの志士の主張たる攘夷を鎖國と同一視することがあつては相成らぬ、鎖國は幕府の主張であり、佐幕の精神であり、現狀維持の精神に立つてゐたが、攘夷は皇道に基く維新の精神であり國威を明徵ならしめんとする精神に立つたのである

同じく守る精神に立ちながら鎖國の守らんとするものは目前現下の現狀維持の制度に過ぎないが攘夷の守らんとするものは神代ながらの一貫不動の神の道であつた、尊皇攘夷の精神は維新以來脈々として日本人の心の中に流れて今日に及んだのである、卽ち米英擊滅の大東亜戰爭の理念は夙に八十年前の尊皇攘夷の精神に淵源するのである、私は今日諸君と共に歷史の說く處を斷乎として訂正したいと念願する一事がある、ペルリは日本侵略のため來航したものであり日本を脅迫し、和親條約を強制し、あはよくば日本を植民地たらしめんとしたものであるにも拘らず、このペルリのことを吾々は少年の頃より開國の恩人なりとして敎はつたのである

假面のアメリカ

アメリカは日本を開國してくれた恩義の國であり、ペルリはその代表者たる開國の恩人なりと、敎科書も雜誌も新聞も名士の講演も八十年の永きに亘つて褒めそやして來た、諸君の中にも、未だ左樣な誤りがはしい敎育を受けた人も相當居るのであるが、今日限りペルリを開國の恩人などとは斷じて考へてはならぬのである、今や日本人は日本歷史は固よりアジヤの歷史をアメリカ本位、イギリス本位に見ることを止めてひたすらに日本人の心、アジヤ人の心を以つて見ることが絕對に必要である

その實例を更に一つ申し上げる、それはマゼランの太平洋發見だ、我々の習つた敎科書によれば、一五二〇年スペインのマゼランが太平洋を發見したと敎へる、大西洋が波濤山なす荒海であつたのに比べてこれはまたまことに靜かな大海であつた、よつてマゼランはこれをパシフイック・オーシヤン即ち太平洋と名付けたさうである、これマゼランが太平洋を發見したと西洋の歷史が記し又日本で發行されたアジヤの歷史がかく說かれる所以でもある、しかしこれほど間違つたことはない、太平洋は一五二〇年初めて現れた海ではない、千年の昔、二千年の昔、萬年の昔から、日本の東に横はつてをつた、我々の祖先はこの海と共に生きこの大洋と共に榮えて來たのである、日本の盛衰と共に東の海は横はつてをつた、日本を離れては太平洋はなく、太平洋を離れては日本は無しである

歷史を修正せよ

私をして率直に謂はしむるならばこの海洋を太平洋と呼ぶこと自身既に適當でない、世界の歷史が日本によつて決定せらるゝ今日、この海洋をマゼランの命名によることなく、よろしく日本中心に呼ぶべきであつて、私はこれを大日本洋と呼びたい、私は先日圖らずも、德川時代のある本を讀んだところ、日本の地圖を初めて作つたといはれてゐる伊能忠敬のその師匠に當る人の父の高橋景保といふ人が作つた新訂萬國全圖といふ地圖においてはこの大和島根の東の海を大日本海と名付けてゐるのである、二百年の昔、日本人の心を持つたこの驚學の大人はすでにこれを天地無比の日本の國體に相應しい命名をしてをつた、大東亜の天地からアジヤ侵略の米英の權勢を悉く驅逐したる現代、今我々は斷じて米英の心を持つて歷史を見ては相成らぬ、かやうに日本人の眼と心を以つて歷史を顧みる時我々の知識にして修正を要するものは枚擧に遑がない

アジヤ復興の聲

日本が世界最大の陸軍國ロシヤを破つたといふことは、世界の人人を驚歎せしめたのみでなく、アジヤ十億の民族をして限りなき希望と感激とを日本に捧げしめたのである、東方に旭あり日本、日本はわれ等の兄弟國なりとの信念はアジヤ十億の人の胸に昂揚して、卽ち今日揚子江を渡りヒマラヤを越え、スエズを渡つて風靡した、卽ち今日一億國民が國を擧げて完遂に邁進しつつあるアジヤの復興と大東亜の建設は、今より三十數年前明治卅七、八年において、アジヤ十億の民の聲であり、アジヤに國を成す國々の輿論であつたのである。この時、日本が眞に自己の東亜における地位とアジヤにおける責任とを認識して率先復興に取りかかり、東亜の國々の理想に邁進したならば必ずやアジヤの復興は今日を俟たずして三十年前或は既に就いたであらうと私は確信する

しかるにヨーロッパ勢力のアジヤに對する支配は益々強化しアジヤの東亜の米英制覇が愈よ擴大したのは何故であらうか、私は敢て叫ぶ──それは日本がアジヤの心を失ひ東洋の魂を喪はれたからであり、アジヤに國を成してをりながらその責任と地位とを忘れて米英の國尾に附することに努力したからであると、第一次歐洲大戰において日本は日英同盟の情誼により聯合國側に加はつて參戰した、日本の參戰が英佛米側の戰捷に壓倒的影響を與へたるにも拘らずこの從順な貢獻者に對し英米の報いた處は冷酷不遜、洵に御話にならぬものであつた、ベルサイユ會議がこれであり、ワシントン會議がこれであつた、しかも亦戰爭中より米英の思想謀略の魔手は日本に伸びてをつた、日本が日本人の心を喪失したのは、大正以來特にこの前の歐洲大戰中であつた

ワシントン會議

廿八億の外債を負擔すると共に戰時中、日本の商勢が大いに興り、國力が彌力となつたことは事實であるが、これは決して米英の援助でも無ければ恩惠でもない、日本自らの手によつて日本自身の努力によつて成し遂げたのである、廿八億の外債の代償に、日本は大切な卅年の蓄積大和魂を輸出した、家族主義の醇風美俗を破壞して個人主義、自由主義が侵略して來つた、愛國のため御奉公をいそしむといふ愛國心を蔑視して、自分さへ良ければ他人は構はぬと云ふ功利主義と金さへ儲ければそれでよいといふ營利主義が横行するに至つた、勞資相提携して一つ心になつて事業を營むといふ日本々來の勤勞精神は勞資相剋の共產主義によつて混亂せられた

かやうに日本の思想が墮落した時、日本はワシントン會議に引出されてワシントン條約に調印せしめられた、これは條約といふよりはむしろワシントン命令といふべき屈辱的のものであつた、これに依つて日本の海軍力は五・五・三の劣勢比率に轉落された、太平洋無防禦の名の下に日英同盟を一方的に廢棄したる上、日本の領土たる千島と小笠原列島に軍事基地を造ることを禁止した、支那の獨立保全の美名のもとに、山東を支那に還付せしめた外、日支の特殊關係を無視してその政治、經濟的、歷史地理的關係を否定して、これに代ふるにアメリカの門戶開放、機會均等を以つてした、廿數年前のこのワシントン會議の屈辱こそ、今次大東亜戰爭の禍根を胚胎したといはねばならぬ

日本が米英の前に屈服するのを見て隣邦支那は日本を弱し、米英の前に拜跪する日本を侮りの感を持ち、自らは米英に依存して國權の回復を獲らんとしたことは寧ろ當然の成行といふべく、このワシントン會議を轉機として支那では排日、侮日の運動が燎原の火の如く四百餘州を風靡した、アジヤの搾取と東亜の侵略を企圖する米英にとつてアジヤの强國日本と支那とが兄弟相鬩ぎて共に衰亡し、その侵略と搾取に便ならんことが最も好都合であつた、かくて滿洲事變が起り、支那事變が勃發された、而も蔣支那にその眞の敵はイギリスであり、またアメリカであつた

宿敵、今ぞ酬ゆ

しかるに此の宿敵米英に對し昭和十六年十二月八日畏くも宣戰の大詔が渙發せられた、[illegible]米英擊滅に邁進して居る所以である、百年の宿敵、今ぞ酬ゆるのである、我々はその持てる物、その持てる力、その持てる生命を捧げて皇國のため、大君のため御奉公の誠を盡くしつつあるのである、大東亜戰爭はアジヤを復興し、大東亜を建設せんがための戰爭である、卽ち尊皇攘夷の血戰である

君をあがめ夷を攘ふ大血戰である、吉田松陰は安政六年十月、刑場の露と消ゆるその日の朝『討たれるわれをあはれと見ん人は君をあがめて夷攘へよ』と詠つた、大日本青少年團員たるものは、このことを深く心魂に銘じて松陰先生の心を心として御奉公一途に勵まねばならぬ、アジヤ保衛の緒戰であつた明治維新は青年憂國の士によつて完成せられた、アジヤ建設の最後の決戰たる大東亜戰爭は昭和の青年、憂國の諸君によつて成し遂げられねばならぬ、アジヤの歷史は諸君の赤き血によつて創らるるのである、毅然として莞爾として大君のまにまに、尊皇攘夷の血戰を斷乎戰ひ拔かうではないか

大東亜戰一周年
戰略篇（一）

宣戰の大詔を拜してから一年、心しづかに世界戰局を眺めておもふのは、戰ひはいよいよ本格的決戰段階へ突入したといふことである、かへりみればいはゆるABCD對日包圍陣は、世界史から凋落してゆく國家群のみづからを知らしむる大いなる幻影であつた、緒戰と稱へられたその包圍陣は、皇軍一度起てば頃刻の間に知れぬ戰力と、欣然として死地に赴く皇軍將兵の勇戰のまへにたちまちにして切斷され、南海の濤聲と共に去られた、南方の新天地に、巨大なる建設の交響樂をきゝつゝわれらはいま大東亜戰一周年を迎へる、有難いことである

だが同時にわれらはいまソロモン海島方面においてつづけられてゐる日米の激戰死鬪の報にしきりと接するのである、第一次ソロモン海戰以後戰艦五、空母八、巡洋艦卅二、驅逐艦卅をはじめ敵の艦船の擊沈破されるもの既に百十三隻に達したが、我亦戰艦一を失ひ戰艦、空母各一を大破してゐる、しかし皇軍の精銳大部隊の上陸もまた成功して同方面の戰局はわれに有利に展開してゐる

大決戰の序曲

しかしながら相つぐ大本營の發表および十一月十四日の谷萩陸軍報道部長の談話に見るとき、その戰務狀況において、又彼我の損害において、ソロモン方面の戰鬪こそ日米兩軍がはじめて四つに組んだ大激戰であることがうかゞはれるのである、アメリカと濠洲を結ぶ敵の補給線上に浮ぶソロモン群島の戰略的重要性を考察すると、この大激戰がなぜ戰はれてゐるかが明瞭となり、またこれぞ日米の一大決戰の序曲であることを知るのである

戰線二萬數千キロ
電光石火出擊の態勢

空中ゲリラ企圖

眼を西に轉ずれば、新生の光あふれるビルマから、西に烽火を越えたインドには、インド民衆の反英運動をよそに米英軍とインド軍を合して地上兵力約五十萬、飛行機約五百といはれる敵の兵力があり、ビルマへの反攻をねらふ敵はわれに手痛くたゝかれながらも執拗に空からの來襲を企てゝゐる、ビルマを迂回し、重慶通路を再開せんとするのがその本心である更に敵機はインドばかりでなく支那本土にも增強されてゐる、アメリカから、アフリカ、西アジヤ、インドを經て支那本土の基地に送られつつある米機は現在すでに大陸の基地に百數十機あるものとみられ、これらもわが方にたたかれながらもしきりと航空ゲリラ戰を企圖しあはよくばわが本土を空襲せんとその機をねらつてゐる

北方の守り備たり

さらに永遠の北を見る、わが陸海軍部隊が嚴然と確保するアリユーシヤンの西端、熱田、鳴神の兩島に對してはわが方に邀へ擊たれて莫大な損害をうけつゝも、米機はほとんど連日にわたり執拗に來襲を繰返してゐる、又殊に敵米國がアラスカ公路を完成し、陸路アリユーシヤンを連絡して對日北方進攻路の再開に躍起となつてゐる事實を我々は寸時も忘れることが出來ない、われらは開戰一周年にあたり『十二月八日』あの日の感激によみがへるとともに、日本をとりまく四邊のかうした戰局に注目し本格的一大決戰がおもむろに近づきつゝあることをしつかりと認識しなければならぬ

米英北阿に侵略

太平洋から眼を世界にひろげてみる、われらはそこに樞軸陣營と聯合國陣營の本格的決戰の幕が開かれたことを知る、樞軸の苦惱からやうやく起ちあがりつゝある米英聯合國陣營は、遠大なる規模において樞軸陣營への反攻を開始した、アフリカにおける中立國佛國領土の攻擊を始めとする戰局がそれを確實に物語る、かれらはヨーロッパを一色に塗りつぶした樞軸陣營に對する反攻の基地としてアフリカ大陸の確保に着手した

アメリカはまづブラジルを參戰せしめ、ナタールから最も近い西アフリカへたどりつき、兵力を增強、さらにアフリカ横斷道路を建設して北阿に達しアフリカ工作を着々進めてゐたが、つひにモロッコ、アルジエリアの中立國フランス領に不法な強行上陸を行つた、かれらの目的が北阿から樞軸勢力を一掃し、地中海の制海權を獲得し南の正面からヨーロッパの樞軸陣營を脅威し、なることならばヨーロッパ大陸へ第二の出擊を加へんとするにあることはいふまでもない

佛國參戰の危險負擔をも度外視し、米英聯合國陣營のアフリカ確保へのこれらの努力は斷じて第二戰線の結成といふやうな狹義のものではなく、樞軸への本格的な反攻を企圖する世界戰爭決戰への重要な布石と見るべきであらう

米英反攻の氣勢

ともあれ我々は北米、南米、アフリカ、西アジヤ、インド、重慶を結ぶ聯合國の戰略的紐帶がかれらの必死の努力によつて漸次強化されつゝあることを達觀しなければならない、太平洋を失ひ、大西洋を獨伊潛水艦の脅威下におかれるに至つたかれらにとつて、このアフリカ大陸回廊こそまさに命の綱であるのだ

かやうに開戰一年の世界戰局を眺めるとき、敵米英聯合陣營がやうやく血に塗れながらも起上り反攻の氣勢を見せつゝあることが認められる、しかし帝國をはじめ樞軸陣營は戰ひつゝますますその戰略的優位を增大し戰力を強化してゐる

盤石不動の構へ

ハワイの擊滅、マレー半島の進擊にはじまつた帝國陸軍の卓拔なる作戰と將兵の決死奮鬪は世界戰史に空前の大戰果を築き、大東亜の重要戰略據點は悉くわが手中に收められた

南方前線からタイ、佛印、支那大陸、滿洲から北はアリユーシヤンにわたる實に二萬數千キロの尨大なる戰線において皇軍は警備に防備に演練に作戰準備に專念し、出擊の命令一下あるところ、電光石火のごとく動き得る盤石の態勢を整へてゐるのである、また南方戰略要域を確保した帝國は、着々[illegible]物的戰力など毫もおそるるところはないのである

盟邦ドイツまたスターリングラードを實質的に攻略してソビエトの大動脈ボルガを半身不隨に陷らしめ冬將軍の到來を迎へつゝもその前線をさらに深く押し進めて戰略的優位を增大、寶庫コーカサスの北半を攻略して物的戰力に不安なからしめた

戰略地步強化す

開戰一年日本はもとよりのことドイツ樞軸陣營はその戰略地步を飛躍的に強化した、しかも反樞軸聯合國陣營また凋落の寸前にやうやく立直りを見せ、反攻の態勢を整へ、すでに各戰線において出擊をさへ敢行して來た、とくに對日反攻にその主力をそゝぐアメリカは對日敗北の敗訓によつてその戰略戰術に再檢討を加へた結果、陸上基地と大型爆擊機による對日進攻戰術をとるに至つたものの如く、北はダッチハーバーからハワイ、洋上に浮かぶ島々を強力な陸上基地とし沈まざる航空母艦の建造のため日夜その整備を急ぎ、國內では長距離航空機の改良製作に狂奔してゐるありさまである

既に緒戰期終る

かゝる情勢下に十二月八日を迎へんとするわれら國民は、さきの地方長官會議における東條陸相の訓示にあつたつぎの言葉を腦に刻まう

現下においては帝國の優越せる態勢をあくまでも利用して積極的作戰を遂行しつゝわが綜合戰力を急速に增大し、もつて米英との一大決戰を準備すべき一刻千金の貴重なる時期に相當するのである

陸相は重ねて大戰一ケ年にして既に緒戰期を終了し、すでに米英に對する決戰期に入りつゝあることを斷言した、然し昭和十九年度反攻計畫を實施しつゝある敵米英と取組み、決戰上陸においてこれを完膚なきまでにたゝきつける準備は今日から急速に推進しなければならぬ、戰力の增大、生產力の飛躍的增強に對し、政府が血眼となつてゐるのはそのためである、明年こそすでに確立した大戰指導の絕對優位なる戰略態勢の上に決戰の準備が進められる眞に一擲千金の年を迎へたのである

日曜氣配

週初めから時局產業株は俄然急反落步調に轉じ買玉整理を續行した、目星しい上騰株は最高値から十五、七円安を筆頭に大抵十円內外の訂正安を演じたのがすこぶる注目を惹いた、これは別段具體的な惡材料が現れたわけではないが大藏當局が增資を認可する場合その時の情勢と睨み合せて增資新株を公開せしめあるひは高配株には減配を行はしめる意響ありと傳へたのが動機であり何分過般來增資見込み買ひが旺盛を極めてゐただけに頗る手厳しい反動に見舞はれたのであつた、しかし當局の株價對策は決して基調を動搖せしめるものではないことは明瞭であり、その後市況は一般に人氣の平靜化とともに先月來採算的投資物色買ひ等が再び勃興して頗る着實裡に推移し週末には長期當限は繰上げ納會したが平穩に終了し現物を通じて時局產業株及び資源株等を中心に部分的ながら著しい立直り氣勢を示してゐるのが散見された

丸善の文房具
オリオンペン
アテナ萬年筆
レポート推寫紙
オリオン書類整理袋
アテナインキ
丸善株式會社 京城・本町二 東京・日本橋通

大東亞戰爭完遂へ
實費の保險
相互組織 千代田生命

朝倉書店新刊
陸軍獸醫大佐 獸醫學博士 市井正次著
馬學精說 —馬事知識普及のために—
A5判上製函入四四四頁 定價五・五〇 送料六〇
大東亜戰下、馬の改良、增殖は國家的大事業であり、之が目的達成のためには國民全體の理解と熱意とに俟たねばならぬ。馬に關した良書は少くないが、比較的廣範圍に讀まれる範圍が甚だ狹少である。本書は軍當局の立場から馬の實相を語り、正しい馬事知識常識を平易に興味深く述べられたものである。
陸軍司政官 海後勝雄著
東亞民族教育論
A5判上製函入三二〇頁 定價二・五〇 送料四五
本書は大東亜教育の性格を歷史的に究明し、大東亜の教育理論と國內教育の新精神の昂揚を說く。今や歐米の移入教育學を批判し、日本教育學の範型を樹立して日本の立場より東亜諸民族の教育政策を啓示せる劃期的好著である。
東京神田一ツ橋二ノ五・朝倉書店・振替東京八六七三番

陸軍報道班員 上田廣著
地熱
東京市麹町區內幸町 文藝春秋社 振替・東京一七六〇三
B6 三〇〇頁 定價二圓 送十五錢（賣切れの節は本社へ）
血を以て綴るバタアン半島總攻擊記「地熱」と米比軍の捕虜に取材する短篇「火樹」を一卷に收む、玆に地を這ひ天を翔る皇軍將兵の勇戰力鬪と大東亜戰爭の高き理想が見事に文學作品として結晶してゐる!!
書店 發賣中
近刊
海軍報道部監修 珊瑚海海戰（十二月上旬發賣）價一・〇〇 送一五
林房雄 青年の國（十二月中旬發賣）價一・〇〇 送一〇
武者小路實篤 美術を語る（十二月中旬發賣）價一・八〇 送一〇
（いづれも發賣期日賣切れの惧れあり、今から最寄書店へ御豫約おき下さい）

桑山信一著 現代文化の哲學的反省 價二・二〇 〒十五
現代文化の哲學的、思想的原理を探求して新時代の文化體制を示唆した新著。
フオルレンダ・廣島定吉譯 入門哲學史 價各二圓〒十五
世界認識發展の跡を辿つた人類史。世界的に有名な哲學の入門書。（上下二冊）
タイラー・安田春夫譯 自然科學史 價各二・五〇〒十五
平明な敍述に萬感の興味をたゝへた自然科學史。（上下二冊）
森喜一著 日本生產機構入門 價二・二〇〒十五
現下日本の產業構成を明かにして日本經濟の方向を示した新著。
ピグウ・大住龍太郎譯 戰爭の經濟學 價一・六〇〒十五
高橋龜吉著 戰時經濟講話 價二圓 〒十五
戰時經濟學の入門書として好評を受けつゝある書。增補改訂版。
伊福部隆彥著 老子道講話 價一・八〇〒十五
老子の世界に人生を探求した道の書、修養の書として好評。
松下芳男著 近代日本武將傳 價二圓 〒十五
明治以降日本の名將を興味深く描いた傳記書として好評。
ラゲルレフ・角田昇譯 エルサレム 價一・八〇〒十五
ノーベル賞文學叢書の第十八冊。北歐文學の雄篇。
ブーニン・中村白葉譯 村 價一・八〇〒十五
ノーベル賞文學叢書第十七冊 強烈なロシア魂を活寫したロシア文學の傑作小說
圖書目錄進呈 東京市芝區田村町四 振替東京五九七四八 株式會社 今日の問題社

山崎丹照著 內閣制度の研究 A5判 四四〇頁 價三・五〇 〒二〇
議會政治の實情は常に公明正大であらねばならぬ本書は歷代內閣制度の全般
重版出來
今村忠男著 軍票論 價二・二〇 〒一五
渡邊茂雄謹纂 明治天皇 價二・五〇 〒一五
豐澤豐雄著 日本發明發見物語 B六判 三四八頁 價二・〇〇 〒一五
本書は日本に於ける發明發見家の業績を詳述し、教育上科學的見地からいつて時局下青少年の好讀物である。
最新刊
松崎啓次 小國英雄 共著 阿片戰爭 B六判 二七〇頁 價一・五〇 〒一五
野望あくなき英國資本主義の魔手と搾取と侵略と、虐げられし四億の民の
大場彌平著 成吉思汗全傳 價一・六〇 〒一五
眞崎甚三郎著 時局と青年 價一・〇〇
特許局技師三十名執筆 化學發明の驚異 價一・六〇
新興科學の常識 價二・三〇
防空科學の常識 價〇・五〇
發明と科學 價一・二〇
理學博士 淺田常三郎著 國を守る科學 價一・五〇
注目すべき發明考案 價〇・二〇
（送料各冊十五錢）
高山書院 東京市神田區小川町二の十 振替東京八三八九三

社說　皇國健兵の母

一

戰爭は教育を積極的に國家の前面に押出す。戰爭は教育に緊急切實なる要求を提出して、その實效を迫るのである。戰爭は戰ひ勝つ處にその目的を主張する。故に戰ひを勝つために戰爭は教育に對し戰ふものゝ資質の錬成を重要視するわけである。

二

錬成は夙に錬成を施される對象に向つての指導訓練であるが何れの教育もその被教育者を繞る生活の周邊を價値造成の條件とする。故に青少年錬成の場合その錬成を施されるものゝ父、母、近隣者の協力が大きい役割を持つことは當然である。茲において來る十二月一日を以つて實施期に入らんとする特別錬成の施設も、その生活周邊が問題として特に取上げられることになるのである。

三

徐ろにその特別錬成を受くる青少年の生活周邊を成敗するに半島に於いてはその周邊者たる婦人の素質が一般的に低いとである。上層家庭の婦人はいざ知らず世上一般に於いては從來その學識といひ、意識といひ、それらの教養の總てが等閑に附せられてゐたことは事實である。然るに今日最も深き現實に於いて要諦せらるゝ處のものは、總ての教育に限つて第一はその母なる人の價値活動の協力である。『世界の歷史はこれ母の作る處』といふ言葉さへある

四

武家時代の果てに殉國の烈士として壯年の死をとげた吉田松陰が、その最期まで心に描いた不滅の像は誰であつたか。それは常に彼を激勵し鼓舞した母なる人であつたといふ。何故にかくも母を思慕したか。これを一言にして盡せば『母の美質』にあつたと言ひ切つてよい。近くは大東亞戰下幾多忠勇義烈なる軍神勇士の偉勳が傳へられる度毎に、その貴く麗しき背景的存立として幾多の『日本の母』が力強くも登場した。その何れもが日本家庭に於ける婦人の尊き美質を優しくも顯示したのである。

五

かくて、今日未だその水準低しとされてゐる半島の母なる人の中に、神社に參詣する人々を見る。また徵兵制度の布かれんとするや、その一念に感激して、大君のつはものを送り出すためには〃先づ私達が國語を話せなくては〃と、老いたる母或は乳呑兒を背負ひたる母の勞の寸暇を割きて學校に、講習會場に出かけて『アイウエオ』を習學してゐると聞く。その至純なる熱誠、其處にまさしく新しき『日本の母』が輝かしい萌芽の出發をとげてゐることを見る。母は素朴にして勤勉なる實に母としての優美性を持つ。半島の母なる世界にかゝる事象の出現は誠に心強さを抱かせる慶事である。世人はかゝる母を『皇國健兵の母』として讃へると共に、半島が其全野にかゝる母を持つことを希求して已まない。

燦たり無敵皇軍の七十年【上】

古に還る國民皆兵

大いなる黎明日本の息吹き

皇軍の威武四海を照し今や東亞の要衝は輝かしき戰果を築きつゝある、この皇軍の基礎をなす全國徵兵の詔が發せられてからこゝに七十年、こゝに神武の古より傳はる海內皆兵の思想を顯現して明治五年十一月廿八日兵部省を廢して陸海軍二省を設け、徵兵令を公布し兵備の形態が初めて整備された、その後徵兵令は改正せられ、兵役法と改められ、やがて日清、日露の兩役から更に滿洲、支那事變を經て今次の大東亞戰に直面し無敵皇軍の嚴たる威容を世界に誇示し、燦たる光芒を放つてゐる、その基盤こそ實に七十年の昔に築かれ血の沁む蓄積がなされた賜である、いままたわが皇民半島にも輝かしき榮光を擔つて徵兵制の施行を見んとし、萬全の準備に勢ひ立つてゐる、この時、大村益次郎、山縣有朋などの明治の先覺が築いた徵兵制創定の血の勞苦と草創期を回顧してみよう

兵制創定の功勞者　大村益次郎

わが國の兵役制度の精神は、比類なき國體、建國の本義、國民の崇高なる道義心に基く皇猷扶翼、國家の保護の名譽及び責任は全國民の負擔なりとの理念に基いて制定されたのである、悠遠の昔を遡れば神武の古から海內をあげて皆兵とし、兵權は總て皇室にあり上古には戰爭に際し畏れ多くも天皇親ら元帥として兵を率ゐられて戰鬪指揮に當らせ給うたのであつた、時として皇后、皇太子の代下に委ね給ふことはあつてもこれを臣下に委ね給ふことはなかつた、すなはち文武の權は朝廷にあり文をもつて敎へ、武をもつて鎭めこれを私する者がなかつたのである、しかし中世におよんで藤原氏が內政にあづかり、源平が外に將となるにおよんで兵權は武門に歸し、兵農は分れ一般に武士が戰鬪の兵の如く錯覺されこれを別に怪しまぬやうになつた

これ が鎌倉武家時代の兵制であつたが明治維新になり政權の朝廷に歸するとともに兵制もまた鎌倉幕府以來約七百年を經て昔ながらに還つたのであつた、藩幕時代の兵制は國家の大弊であると維新の當初政府の要路者が心痛し兵馬の實權を朝廷に歸一せしめることに奔走しその先鞭をつけたのが土佐の坂本龍馬で慶應三年、八策なるものを草して陸海軍備の重要性を說き御親兵設置の必要を力說してゐる、これが維新における徵兵制度への第一聲であつた

◇

明治元年十月には東北の亂が鎭定した時兵庫縣知事だつた伊藤博文もまた各藩の兵をもつて朝廷の常備軍となさんことを建白し、さらに當時の參與だつた木戸孝允も『大政一新の實をあげ皇國を海外に輝かさんと欲せば宿ら〃大本を立てざるべからず、乃ち天下の人を五分して二分を海陸軍、一分を政府の費用、一分を救恤及び萬民の利便を計るの用に充て、なほ海內の軍の綱きは最も必要なれば海內の人員、祿高等を分ち、其に報國の精神を以て償を募り―』と述べてをるなど兵備創定の草創時代は苦難の一歩を踏み出し朝廷の直轄軍備の必要が痛切に說き續けられたのであつた、徳川慶喜の大政奉還により明治元年一月に海軍、陸軍、練兵、守衛、緊急軍務を監督する海陸軍務總督が置かれ、次いで軍防事務局を設け初めて御親兵掛を置き御親兵を設けてこれに謀略させた、當時の御親兵は主として十津川の郷士でその數も僅か四百名內外にすぎなかつた

さて 御親兵の制度は成つたが何んせ微力でいかんともなしがたい、廢藩を斷行し士族の勢力を抑へる爲にはどうしても兵馬の大權を朝廷に掌握して之を訓練せねばならぬとの議は益々募り實際の衝に當つて鋭意兵制の確立を企圖したのが兵部大輔の大村益次郎だつた、明治二年大村兵部大輔は困難を打破して極めて困難なる諸條件を克服し、まづ兵學寮を大阪に設けて將士の養成に力を注ぎ、進んで兵器製造を企畫し大阪に造兵廠を、宇治に火藥製造所を、八幡に火藥庫を造らんとしてこれが實地踏査をなすべく出發したが京都の宿舍で九月四日刺客に傷けられ惜しくも雄圖は水泡に歸したのであつた

◇

當時の國情をみるに、明治二年には各藩は版籍を奉還はしたがそれは名のみで舊藩主が知事となり藩內の兵馬の權を掌握してをり維新の大業に參畫した諸藩は互に反目嫉視して物情騷然たるものがあり何としても全國の兵馬の統一を謀らねばならぬ焦眉の急に迫られ、これがためには徵兵制度によつて朝廷の兵力を充實することが第一の先決問題であつた、その他にも徵兵制確立の急なる理由は幾つもあつた、文久三年薩州藩が鹿兒島灣で英國軍艦と交戰し、元治元年には長州藩が馬關で英米佛蘭の聯合艦隊と戰つて苦戰した苦い經驗からも外侮に備へねばならぬ重大なる問題にも直面してゐる大村益次郎の雄圖を承繼して外遊し歐米兩國の兵制を研究して明治三年八月歸朝した山縣有朋は直ちに新知識をもつて兵部少輔、川村純義、同西郷從道らとともに專ら徵兵制度を建議したのであつた、かくて機は漸次熟し中央政府は全國に徵兵制を布かんとして、明治三年十一月十三日まづ徵兵規則を設けてこれを府縣に布達した

この 規則は一應徵兵とはなつてゐるが實は壯兵たる志願兵の召募であつて全國に賦課した賦兵であつた、その規則をみると

一、徵募の要領　府藩縣の士族なると否とを問はず、身體强壯にして兵卒の任務に堪ふべき者を選び一萬石につき五人づつ大阪兵部省に差出さしむ

二、兵卒の身體　年齡二十年以上三十年以下にして身體筋骨壯健身長五尺以上にして兵役に堪ふる者

三、服役　四年として再服役を乞ふときは之を許し、服役期限となつたる者は檢査により服役を許し舉きときは再選代人を差し出す

とあり、當時の國情からして未だ全國的にこれを斷行するだけの確信と準備がなかつたので試みとして畿內五ケ國の府藩縣にのみ行つた

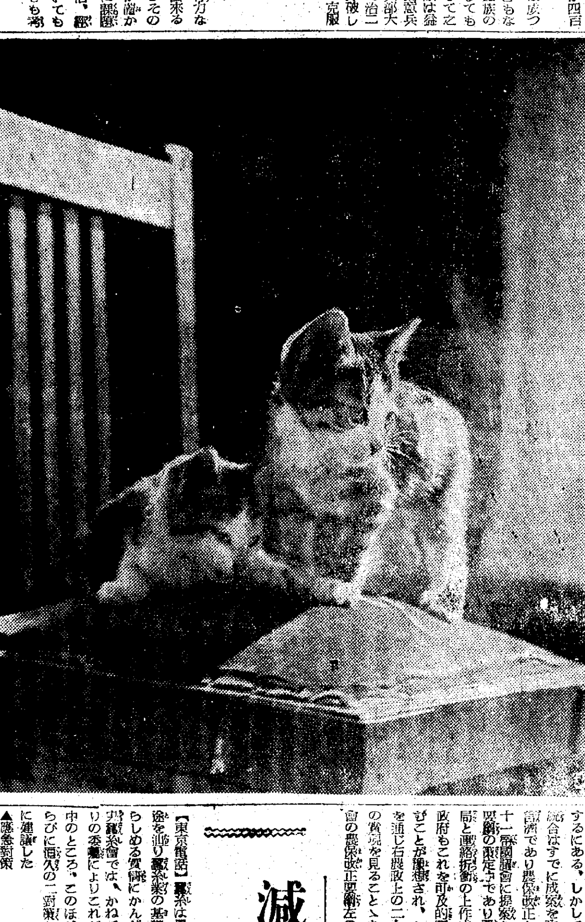
◇

しかし規定の不備と政府の實行力の不足で中止の止むなきに至つた　次いで明治四年二月薩、長、土三藩の兵をもつて御親兵を組織しこれを兵部省に隷屬せしめ、四月には石卷（宮城縣）と小倉に二鎭台を設け、八月にはこれを廢して、東京、大阪、鎭西、東北の各地方に四鎭台を設けた、こゝに兵備は一つの形式を整へ兵制統一の好機はいよく近づいたのであつた　しかし御親兵も、鎭台兵も諸藩の貢獻した所謂壯兵で義務兵ではなく從つて兵役の義務などは一向に解されず封建の觀念を脫せず依然藩閥の徒らも多く軍紀服從の觀念にも乏しく弊害も少くなかつた

越え て明治五年二月兵部省を陸軍海軍の二省に分け山縣有朋は陸軍大輔の職に就かしめられ砕心努力し曲折苦難の道を辿りつゝも徵兵制確立を急いだのであつた、總ての拔くべからざる陋習を破つて新しい仕事を敢行するには猛烈なる反對を伴ひ、支障を招くものである、その例にもれずこの徵兵制に眞先に反對したのが封建の夢破れぬ士族階級で、四民平等の徵兵制が布かれゝば武士としてのこれまでの自負が許さぬ、今まで劣等視してゐた百姓、素町人風情と肩を並べて銃を執ることは困るとか、武事を辨へざる農工商の子弟をして兵役に服せしむるも到底その任に堪へるものでないと叫ぶ者があり一方では、徵兵令そのものには反對ではないが時期尚早であると唱へるものもあつた

これの代表的な主唱者は山田顯義でまづ漸進主義により初等教育が先決で、これが充實すれば軍隊教育も短時日で效果を收めると建白したのであつたが何れも容れられなかつた、其間西周助、原田一道らの學者は山縣を助けて徵兵令の草案作成に當つた、しかしこのことは極めて困難な仕事で六韜合時代の遺制はあつても既に千餘年前の制度で直ちに倣つて應用することはできず、歐洲の兵制を採らんとしてもこれが參考書は容易に入手することは困難であつた

三年 間に亘つてオランダに留學した西周助がまづ陣頭に立つたわが國の國情と古からの制度を基礎に普、佛の制度を巧に參酌し粒々辛苦遂に原文案を書きあげたのであつた、この原文案は次いで調査による草案會議にかゝり、周密なる徵兵令の準備工作は全くなり十一月二十八日遂に國民皆兵制の大詔の渙發となり、徵兵法典の制定を見たのであつたまつたく維新忽諸の間になされた兵制の大改新の辛苦は思ふだに頭が下るのである



本社主催第二回寫眞展覽會入選作品　仔猫　【特選　第三席】　さくら會　內藤富吉

實質的運營へ

大東亞省々委員を活用

【東京電話】大東亞省では省委員の運營に關し研究中であるが來る廿四、五日ごろ官邸に初顏合會を開き、青木大東亞相より大東亞省の根本方策を說明、各委員の積極的な協力を求むるとともに委員の運用方策についても種々懇談を遂げるはずである、しかして省委員に期待する點は、國內官廳各般の連絡などであるが將來は大東亞政策の樹立の有力な諮問機關たらしむる方針で出來るだけ形式的運營を避け、專らその實效を期待することに重點が置かるべく場合によつては委員に課題を與へ、大東亞共榮圈の政治、經濟、文化などの諸問題についても專門的研究を行はしめることも考慮されてゐる

週間世界の動き

米英に敗退色濃化

各地の反攻悉く粉碎

米艦隊總くづれ

ガダルカナル島を中心とする第二次および第三次ソロモン海戰は敵側もこれを『ジユツトランド海戰以來の大海戰』といつてゐるほど激烈且大規模なもので、敵側の損害の甚大さはいふまでもないが我方においても少からざる犧牲を出したことは惜しやむを得ざるものがある。ソロモン群島は敵が南太平洋における最後の反攻の據點とたのむ豪洲への聯絡補給地でこれを失へば豪洲が直接脅威に曝されるばかりでなく、南太平洋の一部に辛うじて維持されつゝある敵の制空、制海權も根柢から覆されることゝなるからだ

そこで今夏八月以來アメリカはこの方面に作戰の重點を傾け、この對日反攻の一切の希望もまたこゝにかけ、據點確保に努力し來つたのであるが我が方の果敢なる反擊に遭遇して未だに目的を達し得ざるばかりか、勢力を增强すればするほど甚大なる損傷を受けて今や敗退の一歩手前にまで追ひ詰められてゐるといへよう

西南太平洋艦隊附のエドワードが『ソロモンがもてるか、どうかわからぬが我が海軍は敵において懸念されてゐる、今度の要求は重大だが豫期してゐたとであり、この損失はもつと續くものと覺悟してゐる』とのべ參謀總長マーシャルが『もつと悪いニユースが豫期されるが民衆はそれを受け入れる力があると確信する』とのべてゐるやうにアメリカの立場を最も明瞭に告白するものである

ビルマ反攻粉碎

敵はソロモンにおける反擊戰と併行してビルマに對しても策同作戰を企圖しつゝあることは重慶や印度方面の敵軍首腦の言動に徵しても明かであるが、最近印緬、敵支國境方面に續々空軍や地上兵力を增强し目下印度方面のみで地上兵力約五十萬、航空機約五百機を集結してゐると傳へられる、ビルマは對重慶輸血路の咽喉であり、印度の最も重要な前哨であること同時に敵がこゝに作戰の重點を置かうとしてゐることも當然であらう

從つて近き將來ビルマに對して敵の一大反擊が豫期されるわけであるが、わが軍がこれを等閑視するわけはなく既に十月以降最近までに敵空軍の七十機以上に損害を加へた外各地の飛行場に積極攻擊を行つてゐることは我方もまた盤石の備へをもつてこれに備へつゝあることを物語るものである

北阿樞軸軍不動

本月七日のアメリカ軍不法上陸以來新に展開した北阿戰の戰況は詳報がないため殆ど正確な斷定は下し得ないが敵合軍、樞軸軍ともチユニス確保を目指して兵力增强を行ひつゝあることは明瞭である、敵合軍にして若しチユニスを確保すればイタリーはその鼻先き內に入りまた地中海の制空、制海權も强化されるとならう、從つて樞軸側として之は是が非でも讓り得ない絶對的戰略態勢である。

七日の不法上陸と同時に之に應じて獨伊軍の執つた措置の第一歩はビゼルタ方面の兵力增强であつたこの重要據點をまづ確保して然るのち漸次アルゼリヤ、モロツコ方面の掃蕩を行はうとするのが樞軸側の作戰方針であらうと推測される、そしてかういふ作戰に出るためには樞軸はまた頗る有利な地理的地位（イタリーよりシシリー島サルジニヤなど飛石傳ひにチユニスに至る最短線が樞軸側の手にある）を占めてゐるので恐らく今後とも有力な增援部隊が續々チユニスに送り込まれ、北阿における反擊を容易ならしめるであらう

西阿に反擊態勢

一方リビヤまで戰略的後退を行つたロメル軍とこれを追擊しつゝあるイギリス第八軍との間の戰況も詳報がなく正確な狀況を判斷することが困難であるがイギリス駐中東軍司令官アレキサンダーが語つた左の如き觀測は少くともロメル軍が『敗退した』といふ敵側宣傳が全く虛構であることを自ら暴露するものといへよう、すなはちアレキサンダーは『ロメル軍は現在依然相當數の兵力を擁してをり特に最近イタリー軍との合流にも成功したやうであり更に裝備についていへば樞軸側はアラメイン地區から一應後退した當時は少數の戰車しか持つてゐなかつたが、その後有力な增强を受けてをりロメル軍が現在有する戰車數は容易に推測出來ない、今後の情勢は一にかゝつて武器兵力の增强にあり樞軸軍が既に增援部隊と武器の供給を受ければ戰鬪は非常に長引くことゝならう』

以上の事はロメル軍が補給と增援の便を得る地點にまで戰略的後退を行ひつゝあることを反證するものであるがこの意味において一部の消息筋では恐らくロメル軍は最初の基地であつたエル・アゲーラまで後退しこゝで陣容を整備した上一大反擊に轉ずるだらうと推測してゐる

佛も樞軸へ協力

北阿の新戰局展開に伴ふ中立國の動向として注目されるのはまづフランスである、同國はダルラン、ジローなどの寢返りなどによつて攪亂されるやうに一時國內の動搖を來すかと懸念されたが、ペタン元帥はラバール政權とドイツ側の措置よろしきを得て今や却つてますく國內を强化し對樞軸協力態度を濃化しつゝある模樣である、ラバールに對する全權附與、內閣改造などはこれを物語るものであり、恐らくは今後獨伊に對して全面的協力に出ることゝならう、フランスに次いで問題になるのはトルコ、スペイン、ポルトガルなどであるが、何れも公的にはまだ從來の態度を一分たりとも變更せず中立維持の意圖を表明してゐる

たゞ懸念されるのはこれらの諸國の內外から聯合國が必死になつて壓迫と宣傳を行ひつゝあることだ、これが牽制のためには一日も早く樞軸が北阿作戰を勝利に導くことが要請される、なほ北阿に於ける聯合軍の一時的優勢はアメリカの宣傳と相俟つて遠く南米に反響しチリー、アルゼンチン等の中立態度をも危からしめる形勢が見られたが、我が國ではかゝる情勢に鑑み最近情報局第三部長談をもつて特に動搖の徵あるチリーに警告を發した、右警告が目下チリーに大なる反響を呼びつゝあると傳へられるのは注目を要する

農業保險制度改正

翼政會で成案を得る

【東京電話】農業保險制度は農業經營の安定とゝもに農政上の二大問題であるが現行農業保險制度については損害補塡額が極めて少額であり保險料の負擔その他において幾多整備の要から省とし、翼政會では政調農林委員會でこれを取上げ根本的改正を企圖、元農林次官小平權一氏を委員長とする小委員會を設け、十月以來調査研究中のところ成案を得、廿一日の常任總務會、總務會においてこれを正式決定し同部總裁より內閣、農林、大藏および企畫院の各所に提出建議した、翼政會今回の策定は農業生產統制强化の現狀にかんがみ現行制度の缺陷を是除整備したもので保險金および政府負擔金の增額を主眼とする根本的改正を期するにある、しかして農業團體の統合はすでに成案を政府に提出濟であり農保改正も政府が第八十一帝國議會に提案を決定、目下要綱の策定中であり翼政會案は當局と連絡折衝の上作成され直ちに政府もこれを可及的要綱中に織込むことが豫想され、かくて今議會を通じ右農政上の二大案件は解決の實現を見ることゝなつた、翼政會の農保改正要綱左の如し

一、農業保險制度改正根本方針　第一基本方針農業上の災害に對する共濟保險施設は農業生產の確保・農業經濟の安定上必須の事項なるが現行制度においては損害補塡金額が極めて少額なるのみならず保險料の負擔その他の點において整備を要するもの尠からず、かくては所期の目的を達成すること至難なるをもつて農業經營の實情および統制經濟とに農業生產統制强化の現狀にかんがみ左記要綱により根本的の改正を斷行し、もつて農業經營の安定、必需農產物の增產上遺憾なからしむることを要す

二、改正要綱

（一）農業再生產を確保し農業經營の安定を期し得る程度に反當り保險金額の大巾引上げを斷行しかつたの趣旨を達成し得るが如き被害程度に應ずる保險金支拂の割合を改正する

（二）保險料の負擔に付ては一般會計食糧管理特別會計および日本蠶絲統制會社などにおいて相當金額を負擔する

（三）水稻冷害共濟事業については反當り共濟金交附金額を一項の保險金額大幅引上げと同程度の大幅引上げを斷行するとともに共濟掛金は一般會計および食糧管理特別會計において相當額を負擔する、なほ水稻冷害については冷害防止策など諸般の必要事項を調査、速かにその共濟保險制度を整備するやう考慮する

（四）農業保險を强制保險として町村農會は總て農業保險の目的となるべき共濟事業を行ふことを要するものとし、かつその總て保險組合の保險に付することを要するものとする

（五）道府縣聯合會の再保險金支拂に關してはその不足金額の補塡資金融通に對し充分なる便宜の供與および利子補給の方法を講ずるとゝもに政府の再保險金支拂の敏速を期するやう適當なる措置を講ずる

（六）道府縣聯合會の固定負債についてはその整理を容易ならしむるため利子の補給その他適當なる方法を講ずる

減蠶の防止對策

中蠶會で政府に建議

【東京電話】蠶絲は最近減蠶の一途を辿り蠶絲業の基礎を危殆に陷らしめる實情にかんがみ、日本中央蠶絲會では、かねて組織製絲部より委員會によりこれが對策を研究中のところ、このほど左の應急ならびに恒久の二對策を決定、政府に建議した

▲應急對策

一、政府は繭增產の必要を農家に認識せしめ業者の悲觀的人氣を一掃すること

一、養蠶業者と製絲業者との連絡を緊密ならしめ製絲業者の繭需當地域內における增產繭はこれを優先的に獲得せしめること

一、增產したる養蠶業者に對してはとくに農家必需品を配給すること

一、繭の買上價格を他の物價と均衡を保ち得る適正價格に引上げること

▲恒久對策

一、適地適產主義により桑園の管理制度を設け能率の增進をはかること

一、製絲業を一元的生產機構とし、その高度化をはかり製織を兼營すること

一、强度にして多絲量蠶品種の研究

小賣業の整備

翼政會で要綱決定

【東京電話】大東亞戰爭完遂の途上戰力增强の國家的要請に即應し出せる人的資源を國家的產業に導入し企業の整備再編成を斷行しその供給し、生產增强を推進せしめるとは刻下最大の要務であり、政府は本年四月廿一日の閣議で企業再編成の基本方針を決定したが、翼政會では本問題の緊急性にかんがみ政府の方針を監して、さらに具體的施策を考究することとなり、政務調查會の商工委員會內に企業再編成對策小委員會を設け九月以來調査審議をつゞけた結果成案を得たので政調役員會を經て廿一日の常任總務會に諮り正式決定、陸海、大藏、商工、農林、內務、厚生、企畫院の各廳に提出建言した、なほ小賣業整備對策要綱中要旨左の如し

一、小賣業整備に關する目的ならびに方針を一層明確に表明しかつ一貫せる態度をもつてその實施に臨むなど業者をして去就に迷はしめざるやう適切なる措置を講ずること

一、小賣業整備に關する各省及び地方廳等相互間の方針態度に齟齬なからしめ國策の一元的遂行を期すること

一、生產擴充に關する國民運動を展開し小賣業整備の徹底を期すること

一、小賣業整備は綜合的勞務動員計畫の確立と睨み合せて實施し轉業者をして前途の不安なからしむること

一、工場の地方分散をはかり小賣業整備と聯關せしめ勞務吸收を容易ならしむること

一、轉業者の生活安定をはかるとともに家族授產施設を各地に增設し家族勞務の活用に努むること

一、共助施設機關は道府縣單位としさらにこれを調整强化するため全國的共助施設を設けること

一、產業組合その他農林水產團體と小賣業との分野調整をなすこと

一、轉業者訓練の全きを期すること

一、國民厚生金庫の運營を改善すること

一、商工組合中央金庫法を改正し中小商工業の再編成に伴ふ貸付對象の變化に即應し臨機の處置を行ひ得るやう新に貸付分野を加へること

一、商業組合、工業組合の改組をなすこと

東亞經濟大會

廿六日開催

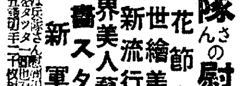
【東京電話】東亞經濟懇談會第四回大會は來る廿六日開會式を擧行廿七日より第一、第二部會を開き大東亞經濟建設構想にもとづき農、工業ならびに金融交易に關する廿二の議題を中心に懇談する、しかして同會ではこの大會開催を機にさきに外務省顧問に轉出した石渡會長の後任として元藏相小倉正恒氏に會長就任方を交涉し十九日午前常議員會の同意を得正式決定した

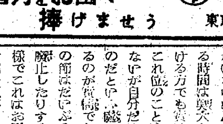
被服工聯移轉

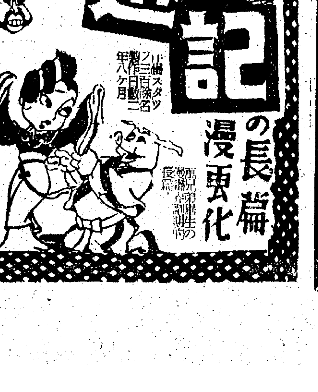
朝鮮被服工業組合聯合會では、永樂町ビル四階の現事務所より通義町へ新築した成歡洞ビルへ移轉することになり廿一日移轉を完了したなほ被服類の指定事務のみ從來の所で行ふことになつてゐる

隨想錄

朝鮮に來た者の先づ驚かされることは挨拶廻りといふことだ▲勿論上長挨拶關係ある方面に挨拶するのは當然の禮儀として受取れるが實際はさうでない、官廳、銀行、會社等主要な個所は殆ど廻らねばならぬ▲これが爲に費やせられる時間は莫大なもので、挨拶を受ける方でも實は有難迷惑である▲これ位のことは誰も氣づかぬではないが自分だけがやめては變なものだといふ懸念から習慣を遂うてゐるのが實情である▲總督府でもこの節はだいぶその範圍を狹めたり廢止したりする方向に進んでゐる樣でこれはお互に結構なことだ▲告別の意味をいふこともあるが悠長な昔の平和時代なら格別、今日の切迫した戰時下に於ては止めて差支のないことはドシく廢めた方がいゝ▲序に宴會のことだが御時勢だ、御高潔だといつては寧にもつかぬ宴會が未だ相當に行はれてゐる、殊に大事な話を酒間に決めるなどといふことは斷然避けねばならぬことだ▲これが嵩じて來ると大きな贈收賄が行はれるに至る、瀆職とか疑獄とかの發端は動もすれば茲に胚胎する、激戰下料亭や待合が大入滿員の盛況を示してゐるのは決して褒めた現象ではない。


男女慰問文一冊進呈
兵隊さんの慰問品　絶好適品
▲浪花節名曲集　一冊
▲浮世繪美人畫集　八枚組
▲最新流行歌全集　一冊
▲世界美人藝術寫眞　八枚組
▲映畫スター名鑑　百餘名
▲最新軍歌集　一冊
右の六品は兵隊さん慰問用として最適品、一組送料共（五錢切手二十枚封入）申込め
誠文社





悪阻は…
酷くなれば妊娠中絶の心配あり
本劑で輕快へ！
強度の嘔氣・嘔吐・食慾不振が起るやうになりますと、如何なる藥も受け附けなくなります故、僅かでも悪阻の徴候あれば直ちにわかもとを服用して下さい。本劑に含まれる豐富なビタミンB複合体は悪阻の主要原因とされる妊娠中毒を緩和しますから悪阻知らずで、衰弱も恢復します
錠劑　わかもと
同化性V・BとB3消化酵素の複合效果……
東京　わかもと本舗

日本必勝の七大理由　武藤貞一
米國いかに增產反擊を企てるも我方に必勝の七大理由あり軍と民間軍事通の筆者が國民の奮起を促した大熱文
小說　最後の引揚船　大平陽介
小說　歸休三日間　眞杉靜枝
小說　燃える鑛爐　田川勇三
小說　夫の祕密　宇井無愁
小說　月と菩薩　土師清二
日の出　十二月號
十二月八日の感激
ハワイ　喜多總領事　ジヤワ　堀口昌雄　新嘉坡　朝日支局長
華盛頓　高田支局長　上海　井出記者　○基地　尾崎士郎
◇戰爭と貯蓄問答會
大東亞戰爭一周年を迎へて　東條英機
三大長篇
▼沙漠の白鳥　渡邊啓助
▼桔梗物語　舟橋聖一
▼生活の樹　藤澤桓夫
國民生產の戰座談會
陸軍省商工省海務院物價局厚生省等の六課長が日米增產戰に對處するわが國民生活の覺悟を述べた
ハワイ・マレー沖海戰の演出　山本監督
價五拾錢・東京牛込　新潮社

安かれ治安の礎
殉職警察官並に警防職員招魂祭

殉職治安に身を捧げた英靈を祀る第廿二回殉職警察官竝に第八回警防職員招魂祭は廿二日午前十時半から總督府構内勤政殿に設けられた祭壇に警察官、警防職員四柱の殉職者を新たに合祀していと嚴肅盛大に執り行はされた、この日小磯總督をはじめ板垣朝鮮軍司令官、田中政務總監、丹下警防會長、高京畿道知事、警務局各課長以下殉職警官、殉職警防職員遺族代表、官民代表など約四百名參列、修祓、獻饌ののち殿下警防協會長は朗々と祭文を前に進んで

〃吾人が身を挺して治安の維持と災禍の防禦に當り或は彈丸の下に斃れ或ひは水火の危險を冒して敢然人命財産の救護に當り遂にその身に殉じたる—〃

と哀調とともに降る祭文を朗讀、次いで大日本警防協會長湯淺内務大臣の祭文を坂本防護課長代讀、高京畿道知事の警防協會各道支部代表祭文、殉職々員遺族代表坂本某氏などの祭文朗讀があつて殿下協會長、小磯總督、板垣軍司令官、遺族總代等の玉串奉奠を了へ同十一時半祭典を終へた

【寫眞＝殉職警察官並に警防職員招魂祭】

尚武の祭典
神宮奉贊武道大會開く

〃尚武の祭典〃—第廿二回全鮮武道大會を兼ねた第九回朝鮮神宮奉贊武道大會は武德會朝鮮本部長田中政務總監が祭主となつて廿二日午前八時半から京城光化門通の警察官武道場で嚴かに行はれた、祭場正面に祀られた諸神の神々しさに襟を正して一同神前に敬禮、修祓があつてのち田中總監玉串奉奠、ついで武德會朝鮮本部副部長西廣警務局長、さらに各道支部長を代表して高京畿道知事、内地から招聘の日本武德會持田（劍）栗原（柔）森（弓）各範士、同朝鮮本部中野範士（劍）古海教士（柔）松永教士（弓）の順でそれ／＼玉串を奉奠してこゝに式典を終へてそれより大會開會式に移つた、式は國民儀禮につゞいで武德旗返還、田中總監が時局下武道の重要性を說いて大會を前にする熱烈な挨拶をのべて閉式、同十時から劍、柔道を同道場で、弓道を總督府構内道場で開始、聖戰に勝ち拔く爲の尚武の繪卷は初冬の陽に赤々と燃えて行つた

サボ島沖夜襲戰記
僚艦の仇思ひ知れ
獨得、敵の内懐深く飛び込む

【軍艦〇〇にて京城軍報道班員廿二日同盟】去る八月初旬以來ソロモン群島方面にその全力を擧げて出撃して來た西南太平洋米英海上勢力はわが帝國海軍の戰へば必ず勝つ猛攻の前にあへなくも潰え去つたこの間約三ケ月世界を震撼せしめた八月八日の夜襲戰をはじめとするわが艦隊の主としてツラギ海峽附近における相つぐ活躍は目覺しいものがあつた、とくに十月十一日夜同海峽サボ島西北方海上において軍艦〇〇が獨力をもつて起上りの不利な態勢にもかかはらず見事敵甲巡撃沈、驅逐艦撃沈各一、驅逐艦撃破の戰果を擧げた壯擧はわが海軍の熾烈なる攻撃精神と夜戰における傳統の卓越せる實力を遺憾なく發揮したものであつた

記者はその海戰の詳細を聞くべく〇〇基地からソロモン群島〇〇基地に飛び久し振りに基地に入港休養の軍艦〇〇を訪れた、以下は艦長以下に聞いたその夜の激戰記である

軍艦〇〇に與へられたその日の任務はソロモン群島ガダルカナル島に上陸するわが輸送船團の間接護衛であつた、敵艦隊がわが輸送船團を狙つて出撃して來ることは當然豫想された、その敵とぶつかればそれこそわが方にとつて願つてもない好機といへるのだ、だが八月八日の夜の夜襲戰で全く不意を衝かれ手ひどく叩きのめされた敵に再び同じ手を喰はすことが出來るとは勿論考へられなかつた

敵は出撃して來れば必ずや凡ゆる方法でわが夜襲を警戒し血眼になつて見張つてゐると思はねばならない、つまり準備をして待構へる敵の内懐にとびこむのだ、しかもわが輸送船團がすでにツラギ海峽に入つたあとである、一切の燈火を出せない暗黑の海上で彼我の識別は極めて困難だつた、まづ敵味方を判別してかゝらねばならない、全乘員の自信と闘志は滿々たるものがあつた、その夜はスコールが相ついでやつて來た、視界はまるで利かない手さぐりで進むやうな深い闇である

島陰に敵艦見ゆ

午後九時四十分ごろ遙か前方の暗黑のなかにサボ島らしき島影が見えはじめたと同時にその島影を背景として敵艦らしきものを一つ二つ三つとわが見張員が捉へた、敵か味方か、さつと流れる緊張のうちに艦長以下は彼、我の識別に全神經を集中した、突然敵影がいきなりパツト火を吐いて敵の彈が唸りを生じて飛んで來た、敵だ、だが若しや味方が間違へてゐるのではないかといふ愼重な警戒があつた、早まる腕をぐつと抑へてしばし息づまる數分間であつた、敵影から矢繼早やに彈が來る中らない、艦隊司令官にも艦長にもこれがピンと來た、味方ならこんな筈はない、よし敵だと決定したとき敵の照明彈と射光彈が無數に投ぜられて邊り一面が眞晝のやうに明るくなつた今や一切の懸念はなくなつたのだ、時を移さず戰闘開始が命ぜられた、恰度それと前後して無念や敵彈が命中、先航する僚艦〇〇にぱつと紅蓮の焔が燃え上つた、火災だ、畜生奴……と誰かゞ叫んだ、燃えながら僚艦〇〇はぐつと旋回した、そして焔の中から猛砲撃である、僚艦〇〇の旋回によつてわが軍艦〇〇は敵影を眞正面にした、思ひきり射てるぞ、僚艦をやられた敵愾心がむら／＼と火のやうに燃え上つて來るのだつた、敵艦隊はあくまで屈せず砲撃を開始した、復讐の憤りに猛りたつすさまじい砲聲である、僚艦〇〇の旋回によつてわが軍艦〇〇は敵影を眞正面にした、敵の照明彈を明滅させながら九十度旋回して突込んで來た

僚艦の仇を討つ

よしいまだ、わが主砲は轟然と火蓋をきつた、右舷砲戰、目標は最も近い敵驅逐艦、敵の砲撃をうけてから約〇分、九時五十六分だつた、初彈命中の叫びがあがる、續いて第二彈が飛んだ、敵驅逐艦はわづかにこの二彈で艦腹にぐつと沈みはじめた、よしとばかり次の目標を求めた、まづこの驅逐艦を血祭にあげて戰闘〇〇の諸砲がぐつと落ちついて來た、いまや起上りの不利を直ちに取返したのだ、そして日頃の血のにじむ夜戰訓練の錬磨が物を言ひはじめたのだ、其間軍艦〇〇はぐつと大きく旋回した、敵も態形を整へたか驅逐艦で左舷に同航し始めた敵甲巡の姿が見える二番艦である三本煙突の甲巡ロンドン型が魚雷攻撃の好位置にゐる、よし此奴を逃してなるものか、水雷長は飛び立つた『艦長、射ちます』と思はず叫んだ『よし、射て』と信頼をこめた艦長の命令が來た、間髪を容れず魚雷を左舷に〇本續けざまに發射した、その時はすでに水雷長は水のやうに落ついてゐた

悲壯艦長の決意

氣負ひ立つた乘員は目標を見つけたその瞬間のことだつたのだ、雷跡が白く泡だち、光る夜光虫の尾を曳いてすぐ見えなくなつた『ズシン、ズシン』と鈍い轟音とゝもに命中の激しい震動がわが艦にも響いて來た、直接戰闘を見ない機關長などは我に砲彈が命中したのではないかと思つたほどであつた、もくもくと高い水柱が敵艦を被つた、『命中、命中』といふ叫びと同時に『萬歳、萬歳』の聲があがる僚艦〇〇に命中彈を浴びた無念を今こそ晴したのだ

時ならぬ時ばかりはこみあげて來る常に冷靜なわが將兵もこの歡びをどうすることも出來なかつた、水柱が消えた、とみるとすでに敵二番艦の姿は跡形もなくなつてゐた、見事な轟沈だ、艦も、人も一瞬にして海に呑まれてしまつたのであらう、敵は混亂した、餘りに見事なわが必殺の魚雷攻撃に泡を食つて左方にぐつと逃げたが彼我の距離は〇千メートル以上に開いたらしい、暗黑の海上に敵影はみえなくなつた、しかし敵彈は一層猛烈に飛んで來た、燃えつゞけながらもあくまで屈しない僚艦〇〇の艦影を目がけてゐるやうだその頃には僚艦の速力は次第に落ちはじめてゐた『頑張れ、大丈夫だぞ』と叫びかけてやりたいがその必要もないほど傷づきながらもあくまで闘志を喪はない僚艦の勇ましい姿であつた、傷づいた僚艦〇〇を左舷前方にかばひながらわが軍艦〇〇も速力をおとしたこの際速力をおとすとの不利はいふまでもないのだが僚艦はあくまで守つてやらねばならない、そしてこの傷づいた僚艦を目がけて來る敵を片端しからやつつけよう、僚艦とゝもにあくまで戰ふのだ、これが艦長の悲壯な決意であつた

それにしても暗黑の中に彼我の距離がひらきすぎて撃つべき敵影を捕捉し得ない焦躁さよ、艦橋の見張員は血走つた目に猶執念をこめて闇の海上を睨みつゞけた、かうして約十分遠くわれを避けながら依然左舷を同航してゐた敵は何を思つたか左方にぱつと探照燈を照射した、すでに二番艦を瞬時に轟沈されて浮足立つた敵はわが方が續ける沈默の不氣味さに堪へられなくなつたらしい、そして戸惑ひした揚句己の左舷にもわが艦が廻つたと思つたのかも知れない

叫ぶ感慨の萬歳

うづうづする腕を擦してゐた砲術長はいまこそ再び獲物を捉へたのだ『しめたツ！いまだ！』と思つてわき上る興奮を抑へて左砲戰を號令した、先頭をゆく敵甲巡ロンドン型だ、一齊射、二齊射とぶちこむわが的確な砲彈に先づ二番砲塔附近が燃え上つた、つゞいて艦尾にも火の手があがると見る間に左へころ／＼とよろめき出してゆくのが見えた、この猛砲撃に敵はひよろ／＼と陣形をみだしたがまだ殘つてゐた敵の巡洋艦はそのまゝ闇に紛れて遁走してしまつた、敵からはほとんど彈が來なくなつた、たゞ敵艦載機が五、六機盛んに上空を飛び廻つて釣光彈を投下し空から敵我を照明するとともに驅逐艦らしいのが左舷から喰ひ下つてつけて來る、時々中らない魚雷が舷側に水柱をあげるが巡洋艦離脱のための足搔きにすぎないのだらう、不思議に魚雷攻撃をやらない、傷づいた僚艦に止めを刺しに來るのではないかといふ懸念もこの様子では大丈夫だと安心してゐるうちに驅逐艦も闇に紛れてゐなくなつてしまつた

戰闘終了は十時五十六分、約一時間にわたる軍艦〇〇の悲壯な奮闘であつた、火災ぐらゐで沈むものか、間もなく消火してよしんば速力はおちても無事だらうと誰もが確信してゐた僚艦が遂に無念の涙をのんで西南太平洋の波間にその雄姿を沒したのはそれから約一時間後の十二時すぎであつた、わが驅逐艦が救助作業に取掛つてゐた、そして艦長以下ほとんど全員を無事收容した、傷づきながらも最後まで戰つた僚艦〇〇は安らかに西南太平洋の海底に眠れ、仇は見事にその場でとつたぞ、軍艦〇〇の將兵には その滿足は あつた、わが損害に倍する打撃を與へたのだ、それでいゝのだ、これ位の損害もまた已むを得ないのだとは思ひながらも、ともに戰つた僚艦〇〇を失つた口惜しさは大きかつた

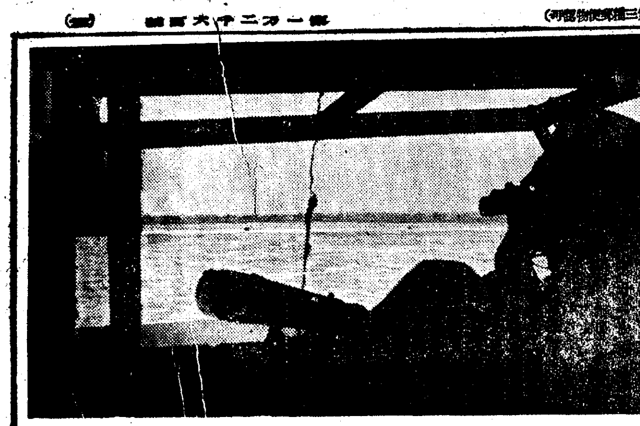
『〇〇萬歳』わが軍艦の將兵は今一度遙かに闇の海上を睨み無限の哀惜の感慨をこめて叫んだのである、そしてさらにこの僚艦を失つた傷手を數倍にして返す次の海戰を堅く誓つたのであつた

徴兵實施記念 朝映で感謝の夕べ

兵制七十周年記念日に朝鮮軍兵務部は朝鮮映畫配給社と共同で實施を記念して朝鮮軍報道部、國民總力朝鮮聯盟後援のもとに廿四日午後六時半から京城明治座に同七時から若草劇場に府内優秀國民學校兒童二千名を招待して〃兵制七十周年記念徴兵制感謝の夕〃を次の通り催すこととなつたが映畫〃東洋の凱歌〃はフイリツピン派遣軍の製作にかゝるものでバタアン、コレヒドールの全戰線の戰果が生々しく記錄され聖戰下まことに好個の催しといへる

李王、同妃兩殿下 高麗神社に御參拜

【東京電話】李王垠殿下には方子妃殿下と御同伴にて林事務官を隨へさせられ、廿二日午前八時半赤坂邸を自動車にて御出門、同十時秋色濃き埼玉縣入間郡高麗神社に御着、先着の同神社奉贊會理事長丸山鶴吉氏、大津埼玉縣知事ならびに社掌高麗明津氏その他關係者の出迎へをうけさせられつゝ御少憩の御後御拜禮、大東亞戰の完遂を御祈願遊ばされた、次いで殿下には附近の高麗王の墓陵や聖天院などの古跡を御覽の後歸途につかせられ、同郡佛子村株式會社平仲レース工場を御視察の後、午後四時御歸邸遊ばされた、高麗神社は内鮮一體を象徴する聖地でこのほど各方面の寄附を得て附屬建物等の一切が竣工したばかりであり、李王殿下が初めての正式御參拜を仰ぎ關係者一同は感激してゐる



【寫眞＝嚴然北を護る〇〇監視哨勤務の監視兵】

儼乎たり〃北邊の防人〃
滿ソ國境を觀る（下）
毛皮も忽ち氷柱 〃肉體亡ぶも〃と誓の碑

……神々しい……哨兵の姿……

皚々たる曠野になだらかな雪の起伏のうねりのみが地平線の彼方まで擴がりソ聯兵の姿など肉眼では到底認められない、たゞ雪の波間に點々と黑點が不氣味に露出してゐる、これがソ聯の第一線陣地だ、ソ聯側國境の街〇〇が不氣味な寂寥の中に黑々と眠りたゞ一つ嶺上に綴つてゐる赤燈のみが目にしみる、燈火管制を敷けて螢ほどの微光さへ漏らさない暗黑の街である、先刻から吹いてゐた朔風が漸く吹き募り鐵條網や電話線が物凄い唸りをたて出した、空はあくまで晴れ渡り午後の太陽は眞赤に照り映えてゐるが、白砂雨のやうな光澤をした粉雪を吹き上げて猛烈な吹雪となつた『風を背にしないと凍傷にやられるぞ』と後方から若い〇長がどなつてゐる、防寒外套の毛皮がまたたく間に氷柱になる、防寒靴を通して刺すやうに寒氣が足先から身體全體に感じはじめた、しかし『北邊の防人』はこの吹雪の中に儼然と立ち續け、神々しきまでに尊い姿である

……北の護り……誓ふ勇士……

〇長に誘はれて石と煉瓦を積み上げた穴倉のやうな小舍に入る小さな室ではあるがこゝが防人たちの事務室、食堂兼寢室である、日本では雪と風が同時に來なければ吹雪にならないのですが、こゝでは地上の雪を吹き上げるので、風さへあれば直ぐに吹雪です、ひどくなると、さし伸した自分の指先さへ見えなくなりますと下士官は語つてゐた、この吹雪の國境線を中にはさんで僅か〇〇〇米しか離れてゐないソ聯の街と、滿洲國側の街とはあたかも陰と陽、明と暗ほどの差異がある、ソ聯側の〇〇〇の街は暗黑の靜寂に眠り、滿洲國側〇〇の街は美しく灯がついてゐる單調な雪の海原に立つてゐるソ聯兵はこの街の灯を羨ましく眺めてゐることであらう、心の底までしみ入るやうな月が早や曠野の中空にかゝり、幾分凪いだ吹雪を通して赤い灯の街またゝく美しい街が見える、記者は『北邊の防人』たちが最後にいつた力強い言葉『北の護りは斷じて果す』との一言を幾度も繰返しながら遙かアリューシャン列島の孤島を護る勇士に、そしてまた南海の勇士達に如何にしてこの言葉を傳へたらよいかと考へながら白雪の曠野をとぼとぼと歩いた

……寒氣の下……續く鍛錬……

第一線各部隊ではどこでも[illegible]と起床直後『よいしよ、よいしよ』と乾布摩擦の逞しい掛聲が國境を壓してゐる、監視哨勤務の兵隊さんもかうして常にたゞ一度の決死奉公を誓つて猛しい訓練を續け、強靭な意志をもつて酷寒零下數十度の大地に立つてゐるのだ

一方かうした緊張の中にあつて默々と自動車の整備に當る兵隊さんもある、彼等の苦勞は到底想像出來ない、いざ出動といふとき酷寒の中では素早くエンジンが始動しないので常に始動出來る状態にしておかねばならぬ、藥物を鋼よりも固く凍らせる寒氣の下で、不自由な防寒具をつけての整調作業は筆舌に盡しがたい努力と技術を要する

……決意語る……空界の碑……

〇〇殺界の小高い丘に一基の石碑が立つてゐる、碑文には『空界の碑』と刻まれてゐる、一死必勝の信念の下に明け暮れしてゐる〇〇部隊の勇士一同が髮を埋めて、國境警備の礎たらんと誓つた悲壯な記念碑で『肉體はよし亡ぶとも魂はあくまでこの地に殘す』といふ斷乎たる決意を示すものである、また監視哨の入口にも小さい石碑が立つてゐる、刻まれた文字は『義は山嶽より重く、死は鴻毛よりも輕し』とある、この碑を背にして兵隊さん達は嚴然と前方を睨んでゐるのだ

あの監視哨に一匹の利口さうな犬がゐた、過日國境から迷ひ込んだ一人の男を發見して大手柄を樹てたところで、この犬は時々のこ／＼とつい近くにあるソ聯の街に否應なしで遊びに出かけるさうだ、或る時女性の下着のやうなものを失敬して來て兵隊さんを爆笑させたといふが、何も慰安のないこの一線では唯一のマスコットになつてゐる

……祖國の香……まつ前線……

前線はすべてが美談である、彼等の祖國愛と友情と責任感は明朗にしかも敵愾心を以て強く結ばれてゐる、一人の重傷患者が出ても全員が治療に當る、輸送部隊の自動車が濕地に墜落しても零下數十度の寒風猛る中を兵隊さん達は手袋を脱いで氷の中に飛び込み、綱がかけて引揚げ作業に挺身する、〇〇の周邊には雪に蔽はれた山々が美しく波打つてゐる、何の娛樂もない村だが春ともなれば爛漫たる百花の競艶場となる、前線の勇士達にとつてはここの靜かな山や花が唯一の樂しみだ

『何が一番嬉しいか』と第一線の兵士たちに問へば、答は何處でもきまつて『遙か内地の香りをつたへてくる慰問袋と便りである』と連絡路の中間にある〇〇監視哨に毎日與りと電話がかかる、バス運行の有無を尋ねてくるのだ『バスが通つたぞ』といふ返事に將兵達の喜びは大變なものだ、慰問袋や手紙が屆くからだ

……慰問團に……勇士泣く……

峰をわたる風と狼の遠吠えしか聞えない前線に一年に何度か慰問團がやつて來る、ある慰問團が慰問を終へて一部落を通過する時、そこに二、三十名の兵士達が警備についてゐるのを發見した、眼のあたりにみる苦勞の様に慰問團は早速その場で假舞台をつくつた、兵隊さんも感激してこれを手傳つた、僅か卅分間だが、慰問團は一生懸命踊り拔いた、兵士達は喜びの餘り聲も出さずに逞しい握りこぶしで眼をこすつた、踊り子もついつられて泣きぬれたといふ

描かれる〃忠魂の華〃
李仁錫上等兵の最期
『大東亞戰爭美術展』に出品

今次聖戰に咲く忠烈銃後の情景を一室に網羅する〃大東亞戰爭美術展〃は十二月一日から東京上野に現日本畫壇の秀作約一千點を集めて忠魂の華を開くが、右展覽會に半島を代表して山田新一、遠田運雄兩畫伯が半島忠魂の繪を送ることとなり、山田畫伯は半島青年の逞しい皇民化を紹介する意味を籠め五十號カンバスに『軍李仁錫上等兵』を描くこととなつた

畫想は昭和十四年六月李上等兵が北支山西の激戰に戰友に抱かれ、半島志願兵として最初の名譽ある戰死を遂げた壯絶な場面を描いたもの、これに對し朝鮮軍報道部及び志願兵訓練所では幾多の聲援を送ることとなつたがわけても廿二部隊〇〇部隊長は山田畫伯の意氣に感じ所屬部隊の中から二兵士をモデルとして派遣することとなつた

軍部のかつてない聲援に感激した畫伯は日夜精進、完成を早めてゐたが豫定通り廿三日中には終り、愈廿四日最後の仕上げとゝもに愈よ東京へ發送することゝなつてゐる【寫眞＝繪筆を揮ふ山田畫伯】

肺結核の早期發見

結核の初期はどんな症状になるか、患者や看護人はどんな心得が大切か、斯界の權威小池博士が婦人俱樂部十二月號で發表。

今泉翁咸興へ

【咸興にて坂本特派員發】平壤における皇道宣揚大講演會を廿一日夜盛況裡に終了した今泉先生は廿二日午前七時廿分平壤驛發午後六時三分瀬戸咸南知事の出迎を受け次期會場咸興に到着直ちに宿舍松月に入り午後七時から瀬戸知事招待の晩餐會に臨んだ、廿三日は公會堂において午後一時から座談會を同七時から講演會を開催する

太平通の火事

廿二日午後七時ごろ府内太平通二ノ三二四李暢永橋工場の乾燥場から發火、工場の一部を燒失、同八時ごろ鎭火したが、原因その他損害は目下所轄本町署で取調中

胃腸 はぶ茶 夏川茶舗

戰時保險取扱指定會社 朝日海上火災 大阪 北濱

特約販賣店募集
全國諸官衙學校會社其ノ他一般大衆に飛ぶ程賣れる。慰問袋に必ず一箇。前線將士大歡迎
すぐ役に立つ 新案 マレー語會話 附錄 南方語の栞り付（定價四十錢）
大量引受られる有力店を希望す。
東京市本郷區眞砂町十番地 電話小石川五六八八番 振替東京一八八六五〇番 南方語普及會

日本共立火災 京城支店 京城府南大門通二ノ一九九（取引所三階） 電話本局 ②五六六・八〇六二 支店長宅 電話龍山 ②一六三八

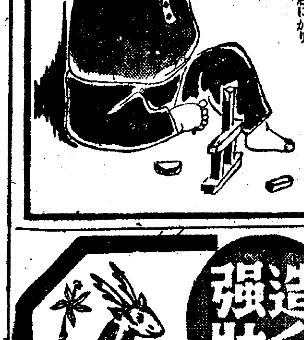
品質の良い 國産優秀品 オリエンタルミシン 全國有名店にあり 萬稔ミシン商會

花柳病泌尿科 安部醫院

胃が痛み胸やけ呑酸が出る方はトモサンを 一円五〇・三円七〇 藥店にあり

南方共榮國へ大陸へ 大日本海外青年會

不眠 便秘 酒毒 病氣の原因となる濁り血を淨化して血行をよくするので、高い血壓も自然に下り、頭痛、目まひ、肩こり、耳鳴り、不眠、便秘等が治り腦溢血を豫防す。また酒の前後に服用すれば酒毒を消して二日醉や惡醉を豫防する。
腦溢血予防に リキシン イマヅ 一円五〇 三円五〇 六円五〇 藥店にあり 大阪市大仁 今津化學研究所


宇津救命丸 小兒良藥
カン持ちの子に
昔から定評のお藥です。持藥にすれば安眠して丈夫な體質になります。
價 廿錢より・藥店にあり
總代理店 株式會社 玉置商店

造血強壯 蔘茸 エリトーゼ 三省製藥所

婦人科 化膿性疾患に アルバジル錠
腎盂炎 膀胱炎 子宮内膜炎 乳腺炎 産褥熱
本劑は内服により病原菌を直接克服す。故に分泌物・腰痛・下腹痛・發熱を消退せしめ根元的治癒を促進す
製造元 山之内製藥株式會社

教練用の 背嚢 戰闘帽 卸もいたします 京城製帽店

丈夫な短靴 特免組合査定濟品 ボックス甲皮改造靴 金十四圓四十錢 カタログ進呈 名古屋市 ナゴヤ商會

ロート目藥
【適應症】結膜炎 角膜炎 トラホーム 疲勞眼 學校眼 眼瞼緣炎 麥粒腫等

水力機械 風力機械 工作機械 荏原製作所 京城出張所 京城・長谷川町

棉作地帯を行く（完）
全南の巻

愛國心に沸る供出
棉花安の不平も解消

南棉北羊といはれる半島で第一位の棉産地として知られてゐる全南道は文字通り"棉の全南"の名を恥かしめない、今や全道をあげて棉花供出に大童となつてゐるが、さすがに本年は大旱害によつて播種の成長に惡影響を受けてゐる、だが棉作は全南の生命とされるだけに熱心な當局の督勵指導と耕作者の努力がつゞけられた結果收穫期前に入り作柄は非常に見直されこの分でいくと可成りの良成績を擧げ得るものとみられるに至つた

特に…本年は棉花の開花が早かつたので昨年より約一ケ月も早く共販を開始、道から各郡に供出割當を行ふと同時に獻納棉花を勸め技術指導員を先頭に、各村落職員邑事長が協力して出荷を督勵し自家消費の根絶を期して目標數量〇〇〇萬斤を突破せんものと意氣込んでゐる、しかし一般農家に比べ餘りにも棉價が安いといふ不平が可成りあり、供出の大きな支障となつてゐることはこの道としては注目すべきであるが、當局としてはこの農民の不平不滿に對して國策の重要性を説き、供出の國民としての責務であることを強調しつゝ出荷の督勵につとめてゐる——記者は按手寧村道氏に案内され道内の視察に向つた——

務安郡◇　卅九ケ所の共販所を擁してゐる務安郡は全南廿二ケ郡中の代表的產地である、作地は殆ど島々の山間部地帶に多く本年は生育期間中旱害、病虫害のため相當減收を豫想されたがいよ〳〵出荷期に入つてみると意外に良好な成績をあげた、作付面積十萬三千六百反步、收穫高は七百八十餘萬斤、その八割を共販目標高として郡では早速棉花增產委員打合會を開いて各委員に擔當區域の實地督勵を絶對に出荷督勵するやう、共販出荷命令書を配付して自家消費を撤制してゐる、また一方各邑面、官公署、學校、金融組合、南北棉業、朝鮮棉花同業會など、緊密な協力をしてゐる

さらに各里、區長、聯盟理事長、棉花增產委員を總動員、選棉乾燥の良否は直ちに利害に影響すること
一、責任供出量以上の出荷者には棉布の特配をなす
一、棉花供出獎勵金交附ならびに部落懇談を行ふこと
など獎金を醵し綿布配給の不足と棉價の安い不平を押切つて愛國心に訴へて自家消費、密賣防止に大童となつてゐる、この結果八日現在では百四十萬斤を突破したが品質もよく一等棉が八割以上を占めてゐる……

光山郡◇　時局の重大性に鑑み光山郡ではこれが重點品たる綿花の增產を奬勵すべく土地、耕作者を選定して播種、肥培管理の指導を徹底させ銃後國民の衣料を棉花の生産供出の上に發揮せしめるべく努力してゐる、しかし旱魃の影響が可成り大きく農家では自家消費に廻る棉を下して作付面積二萬三千反步、共販目標百十萬斤を標準として棉作者個人別の棉作台帳を作り邑から面、面から區長、聯盟理事長、それから愛國班長へと責任供出高を明示し班長に責任を負はせ供出量を配付するなど既に十月から實行に移してゐる、棉作農家に對する獎勵方法としては松田技手が先頭に立ち各邑面の協議會長、愛國班長を各販賣所指導員として供出督勵に派出しその成績の顯著なる者には各邑面へ三百円以内、個人には百円以内の獎金を授與支給するといふ制度を設けてゐる

そのうへ生産には供出數量完了者順位に統制綿布の優先配給することを決定して割當數量完遂へ積極的督勵をしてゐる　この郡は光州府を擁してゐる關係上一般繊維製品の不足に伴つて棉花の密賣、地木綿の需要者が多くその値段が高價なので一時共販出廻りは非常に惡く自家消費が增大するので郡當局を初め各面指導員が躍起となりこれを根絶するやう必死の督勵に努めた結果、果してその甲斐があつて出荷狀況は可成りよくなつてゐる、しかし自家數量違反はやゝ困難視されてゐるやうだ

羅州郡◇　でも六、七月の大旱害に禍されたが、八月初旬の降雨にやゝ蘇生、豐作とはいへないが、特に本年は耕作面積の確保、指導力強化を二大綱目としてゐるが、九月上旬收穫期を前に先づ郡では石本郡長を始め土屋技手、棉作係員が一體となり『今年の共販高はわれ〳〵最後の奉公にかゝつてゐる』とばかり郡長自ら愛國班長に要、出荷態勢の整備、簡素化などの徹底を圖つて、出荷奬勵に全力を注ぎ責任數量確保は勿論それ以上の成績をあげることに努めてゐる

かくていよく共販期に入り緊急部落聯盟理事長打合會を開き郡内共販目標高二百廿萬斤のうち割當數量の急速供出完了を促し部落聯盟の愛國班を標準とした責任數量を割當てこれを完了するまではその部落聯盟員は連帶責任をもつて自家消費を自肅することを申合せた、かくて一般農家はこの方針に順應して日毎に效果をあげてはゐるが、麥播きに追はれ十月末日現在の共販高は僅かに約一割を示して出足が遅れてゐるしかし年末までには割當數量が圓滿に出荷されるであらうと郡當局は樂觀してゐる（鄭特派員記）

神宮奉賛武道 第二日

半島最高峰を行く第九回朝鮮神宮奉賛第廿二回全鮮綜合武道大會第二日は午前八時半、京城光化門通警察官講習所における武德祭及び大會開會式について劍道、柔道中等、專門及び一般對抗（警察官講習所）弓道は（京城府內道場）を擧行、會場には小磯總督も臨場觀戰、向ふにあがる銃後の意氣と熱は、日頃鍛錬の成果と相まつて遺憾なく發揮された

劍道
中等學校對抗
▲第三回戰
○京畿商—新州商×
○新義州商—京畿中×
○大田中—江景商×
○京城師—平壤商×
▲準決勝
○京畿商—新義州商×
○京城師—大田中×
▲決勝
【京畿商】4—3【京師】
○岸川—磯林×
○山口—益田×
×椋橋—中村○
○飯尾—小坂×
○鹽村—菱田×
×山場—原○
×星野—三宮○

專門學校對抗
▲第二回戰
○藥專—高農×
○高工—平醫×
○法專—高商×
○豫科—京師演×
▲準決勝
○平醫—藥專×
○法專—豫科×
▲決勝
【法專】6—1【平醫】
×森本—高江○
○新井—秋間×
○白石—星子×
○李宮—園田×
○大島—丸田×
○渡邊—近藤×
○師平—楷本×

道一般對抗
▲準決勝
○京畿—平南×
○咸南—全北×
▲決勝
【京畿】4—1【咸南】
○德重—三原×
×松本—堀切（居）○
×濱田—甲斐○
×商島—山下○
×堀切（伊）—村越○

柔道
中等對抗
▲第三回戰
京城師 6—1 大邱商
大東商 5—2 京城工
京城商 4—3 大田中
▲準決勝
大東商 5—2 江景商
京城師 5—2 京城商
▲決勝
【京師】7—0【大東商】
○白川—吳田×
○宮本—鹽原×
○金光—三井×
○安田—國本×
○高村—月山×
○栗原—全×
○津浦—金源×

大學專門學校對抗
▲第二回戰
惠專 4—3 豫科
高商 7—0 齒專
▲準決勝
京師演 7—0 高商
鑛專 4—3 惠專
▲決勝
【京師演】7—0【鑛專】
○岡—荒井×
○安川—森山×
○富田—藤田×
○德永—佐伯×
○平澤—平田×
○石原—堤×
○佐藤—田中×

一般道對抗
▲第二回戰
京畿 3—1 慶北
咸北 4—1 黃海
全北 3—2 全南
▲準決勝
咸北 4—1 全北
京畿 5—0 平南
▲決勝
京畿 3—2 咸北
○德山—金岡×
×仲村—清永○
○楢村—任岡×
×雨宮—岩松○
○東島—前田×

弓道
◇一般道對抗　優勝京畿（岩元、田中、太田、澤田、中山）32中、2慶南31中、3黃海29中、4全北、全南25中、6平南、咸北、咸南23中、9江原、慶北22中、11忠北21中12忠南20中
【個人戰】◇一般部、優勝田中賀作（三段、京畿）
【團體戰】◇女子中等部＝優勝淑明高女（11中）◇男中等部＝優勝善隣商業（16中）◇大學專門部＝優勝水原高農（15中）

第十回刑務所武道大會

第十回全鮮刑務所職員武道大會第二日は廿二日京城刑務所道場で擧行された、午後三時卅分小磯總督は六野秘書官を帶同觀戰、つひに西大門刑務所が柔劍道共に覇權を獲得、那須き宮本會長から優勝旗が授與された、柔劍道高點試合の優勝は次の通り
▲柔道の部＝一等良元允光（海州）二等新井福出（釜山）三等橋口克己（光州）四等國本東洛（釜山）五等星本壽吉（清津）
▲劍道の部＝一等多田岩雄（清津）二等武本敏男（咸興）三等北仲三七（西大）四等吉本繁雄（大邱）五等荒川光雄（全州）

永遠の女（27）
牧洋作　岩本正二繪

戰ひと共に（二）

小百合は翌日、平壤から歸つた。農夫雄や、リエには、濟みませんと素直に詫びた。それが、感じやすいリエを感動させた。小百合のゐない二日間が、リエに充分の反省を與へてゐた。それに農夫雄からすつかり話をきいて、すべては自分の誤解だつたことを悟つたのである。リエは涙ぐんで、自分の淺的なことをあやまつた。彼女達は、あやまちを自分に歸することによつて、美しい涙の場面を描き出したのだつた。

小百合はその夜、夜學に出ても、無斷で二日間かかしたことを謝した。そして、その罪をつぐなふ爲に一層熱心に勵むことを誓つた。たつた二晩だつたけれども、夜學の人達は何か離つてゐるやうな氣がして、それだけ一層なつかしい新鮮さを、小百合は覺えるのだつた。

かうして、戰がまさに始まらうとした。

時は七月七日、支那軍の挑戰によつて、北支蘆溝橋に、支那事變は遂に勃發した。國民政府の田舍町からも、次々と、六分の青年が出征して行つた。その度毎に朝鮮の老幼婦女子が驛頭に押しかけて、日章旗を手に手に、歡送する光景を見る時、小百合はわけもなく目頭が熱くなるのだつた。

彼女は、東京の父母に、感激の手紙を書いた。

一事變が起つて、私達と朝鮮の人達との間は非常に緊密になつたやうな氣が致します。朝鮮の人達の國防獻金や、その他の美談が新聞に報道されない日はないのですが私はどんなことよりも、國旗で出征勇士を歡送する彼等を見る時、一番感激させられるのでございます。私は今の今まで、殆ど知識がなかつたことを恥ぢねばならない程、やつぱり朝鮮の人達が、うそいつはりない私達の同胞であられるのでございます。私は、私のこの眼で、その人達の僞りない姿を、見るからでございます。その人達の眼には、私達と同じ調子で脈打つ血潮、その眞實の心が、はつきりと現れてゐるんですもの。大きな出來事の場合にこそ、誰が一番自分に近いかが判るのでございます。

つたことを發見した感激に、私は熱い涙を禁じ得ませんでした。私は朝鮮に來甲斐があつたことを、うれしく思つて居ります。このよろこびをもつて、この非常の時局に當り『新しい同胞』のため、そして日本のため、一身を擲げたいと、今切實に念じて居ります。

東京を發つたことが、今になつて見ますと、決して逃避行ではなく、新しい生活の發見への出發だつたのでございます。

父上、母上、大いにお心を安んじて下さいませ。

小百合は目日の生活に、はりを感じた。そして、軍三に對する氣持も、はつきりして來たやうに、自ら感じた。今まで軍三に對して非常にあいまいな態度をとつた自分を、むしろ氣恥かしく思つた。

或る日の午後、軍三がひよつこり訪ねて來た。小百合は、腰があをくと迄つた亭の中に、軍三を案内した。

『明日、江原道の金山に行くのでお別れに來ました』

軍三はさういつて、籐椅子に腰を下した。

『何日間位、金山にいらつしやいますの』

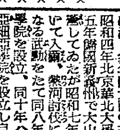
『十日間位です。今日ははつきりと貴女の氣持を伺ひたいのです。所で、江川醫太氏が京城に來たつてこと、農夫雄さんからきゝませんでしたか』

『いゝえ。いつのことです。それは……?』

流石に、小百合は驚きの表情をかくしきれず、迫るやうに訊ねた。

躍進滿洲の展望 その二

教育界に貢獻多大
興茂洋行　大山貴則氏



氏は新義州に生れ新義州農業學校を卒業、世界的舞台をねらひ上海に渡り多年閔大陸の文物を研究し昭和四年北京華北大學を卒業、五年滿洲國新京に於て大山商事を經營してゐたが昭和七年に入り熱河討伐に從軍し多大なる武勳をたて同八年大山工業所を設立、同十年ハルピンに大亞細亞學院を設立し自ら院長となつて滿洲人教育及び指導事業に渡し六ケ年間に亘る心血を傾注してきた崇仰にあたひする功勞者である事情やむを得ず昭和十四年、同學院を廢するや、實業界に進出し合資會社興茂洋行を創立、今や數十萬の巨資と天才的經營で敏腕を以てます〳〵發展してゆく（寫眞＝大山貴則氏）

北滿交通界の覇王
哈爾濱自動車交通會社　金田修明氏

氏は京畿道楊州出身で滿洲に於いて內地代に於ける多年研究イロハゴム工業所を經營、神戸、東京近城牛島に進出大連に於て大々的に活躍した、昭和十年哈爾濱に於て交通自動車會社の創立と共に專務として現在に至る、一方ペタル、ゴム輪工業と組織し長秀の中心に多大な指導し居る、ハルピン交通界に一大勢力を築いて居る所、國產者として本邦人の爲に大いに力を盡してゐる〈寫眞＝金田修明氏〉

實業戰線の雙璧
大同興業　栗山基生氏　康川麟角氏

哈爾濱大同興業の高城は同業者が同年の共同經營で實業界に於いて一方ならぬ盛況を呈し昭和十年入滿し、ハルピンで實業家として活躍し、同十五年には新京に於いて大同興業を創立、新たに栗山基生氏が社長康川麟角氏が專務として手腕を揮ひ、ハルピン北滿の商業界に重きをなしてゐる（寫眞右＝栗山基生氏、左＝康川麟角氏）

前途有望な青年實業家
興亞物產商會　金村光樹氏

哈爾濱の實業界に於ける有爲の人物として知られてゐるのが氏は早く大陸に雄飛し、新京、奉天、ハルピン等を經て全滿的に一身に集め、數十名の從業員と年商五十萬円を一手で切り廻す前途有望なる實業家である

哈爾濱實業界の惑星
合資會社三滿商事本店　八木京一氏

仰の食料生産とその配給の的となつた『三滿商事』はハルピンの動脈キタイスカヤ街に本店をかまへ多數の支店、出張所と共に不拔の營業網を配置し、食料品、雜貨類、化粧品の輸入販賣を專門とし、新しい商道の開拓者として業界に重きをなしてゐる、氏は大阪府出身で大阪商業學校を卒業後新京に渡り滿洲國の創業と共に商業界にあつて十ケ年、ハルピンで業績を擧げ、今や全滿洲實業界の重鎭を以て任じてゐる（寫眞＝八木京一氏）

快明豪岩な活動家
株式會社北海道機械製作所　代表　永井嚴四郎氏

ハルピン實業界の花形、快活豪岩な活動家として知られる氏は北海道出身で明治三十年北城に生れ、哈爾濱に渡り北海道機械製作所を創立しその工場の經營と共に貿易、卸賣業に進出し多數の社員を擁して哈爾濱の中心地に大店舖を持ち新進氣鋭の中堅的存在となつたのである

業界の重鎭
合名會社金豐鑄造所　金井春錫氏

ハルピンの一角に毅然と立ち堂々と一流の工場を擁する同社は鑄造界の覇王と謳はれ優秀なる技術と共に年產百數十萬を算する業績を擧げ同業界の注目の的となつてゐる

篤實なる實業家
東邦電器製作所　山原秀明氏

氏は水原の產で當年三十九歲の厚篤實、不言實行の人として知られ昭和十一年哈爾濱に移住して爾來汲々として實業界に挺身しさきに巨萬の資產を投げ斯界有數なる電工所『大同工業』を經營し現株式會社協成洋行を設立しその重責にあり一方東邦電器製作所を經營してゐる、哈爾濱實業界の中堅として前途を囑望されてゐる【寫眞＝山原秀明氏】

沈着な人格者
オリエンタル麥酒會社　柳井漢相氏

ハルピンの一角に毅然と立ち堂々と一流麥酒會社と覇を競べ今や北滿麥酒界の覇王と謳はれ優秀なる技術と共に年產百數十萬を算するオリエンタル麥酒會社は金李泳氏經營の花形として我等の誇りであるが、同會社の擁する支配人柳井漢相氏は早大理工學部應用化學科出身で、東京ビール會社に勤め後延禧專理學科に五年間教鞭をとり學識ある人格者である

仁術報國
漢醫　金春崗氏

氏は慶南咸川生れ十數年の永き醫學研究を以て造詣ふかく昭和十一年滿洲醫學界への貢獻を冀つて入滿哈爾濱に移住した、氏の研究的華化醫術は間もなく幾十里となき奧地にまで知られ滿系の爲にも多なる好評を博し五族協和の一役を寄與する處あり大きい殊に氏は振興運動に四年間の心血を注いだ となるや更に奉天に『啓文社』をおこし出版事業に物心を傾注その發展育成のため寢食を忘れ內外に奔走した氏こそ大陸の文化向上に貢獻莫大なるものがあるといへる、

開拓工業界の最新鋭
株式會社北海道農具製作所　代表　陽村秀吉氏

北海道農具製作所代表陽村秀吉氏は吉州の生れ卅六の青年實業家で瀬井大成中學校を卒業一般社會事業及び教育界に獻身的努力をなし多大なる功績を遺した人士である、ハルピンに移住爾來實業界に入り昨年同社（廿萬円）を設立その代表として東亞の食糧滿洲の開拓政策に參與すべく農機具の改良多量製作に積極的計畫を樹立燦然たる光を放つてゐる【寫眞＝陽村秀吉氏】

大陸文化の先驅者
原鐵郎氏（元東明）

曾て國內新聞界に活躍し多大の功勞を遺し後雄圖を抱いて昭和四年大陸に進出し爾來亦も朝鮮日報、東亞日報をもつて社會の木鐸として大陸の文化向上に挺身同紙經營に徹してゐる

哈爾濱道裡中國十五道街　韓光淑

出版・印刷・代理店・特約販賣　大陸文化社　本社 哈爾濱　代表

哈爾濱道裡北安街一號　延吉藥房　玄武昊

哈爾濱安寧街四〇號　清水敏光

哈爾濱懷順街一五四號　李弘奎

哈爾濱小安街一四號　豐川清一

合名會社 哈爾濱安寧街五號　大山商事　代表 大山浩用　電話八五一二五

哈爾濱黎明街九號　趙奎喆

合名會社 哈爾濱田地街二號　豐泰號　電話七〇八五

哈爾濱安寧街十二號　西原正治

哈爾濱安寧街一二號　安田義平

哈爾濱貿易街一二六號　金賢德

哈爾濱田地街三一ノ三七　金澤榮藏　屋號 金昌和

哈爾濱承德街四九號　食料雜貨　金田商會　金田東善　電話五八一三番

哈爾濱道裡買賣街三十七號　永昌號　伊原永三郎

哈爾濱安心街一二三號　松野武男

哈爾濱買賣街一二六號　安田中藏

哈爾濱一面街八五號　安德和

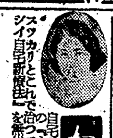
哈爾濱中國七道街六一號　新明飯店　正原英俊

哈爾濱安良街四五號　柳田春傑

哈爾濱安寧街十二號ノ一　田中榮次郎

哈爾濱安平街八五號　平原弘康

哈爾濱中國四道街三一號　三友洋服店



自宅無代 新療法進呈
日本醫藥研究所

校長 從三位勳二等男爵 沖貞男
中野高等無線電信學校
東京市中野區江古田・電話中野七〇五三・五九七三　寄宿舍完備

小住宅　建築申込受付
第一不動產株式會社　電本（2）七三二六・八〇八一

東日本生命 黃金町入口
皮膚泌尿 性病科
醫學博士 渡邊晋
電本894

花柳病專門　恒松醫院

公示催告
昭和十七年民申第二五〇六號
京城府大和町一丁目四十一番地 申立人 …
昭和十七年十一月十四日　京城地方法院

小兒科內科　橫山醫院
南大門通六丁目電停前 黃金町
醫學博士 橫山久衞
電話東局二一二六　入院應需

毒の一切根切療法
廣島回春堂

測機舍 測量器械

シノサキ測器機械部
京城本町二丁目入口

皮膚科 泌尿科 性病科
醫學博士 鴛海元則
鴛海醫院
京城府本町四丁目一二一　電話本局一四九五番

プリント（謄寫印刷）
タイプ印刷引受
明治町二ノ三　丸圓プリント社

近江産婦人科
醫學博士 近江菊正
京城府黃金町五ノ九　信愛醫院

京日案內廣告の御用命は
京日案內廣告社

ピアノ、オルガン、完全調律、修繕、買賣
京城府本町二丁目

京日案內

案內料金（前金）

種別	一件一回税込
一號型（三行）	金參円參拾錢
二號型（五行）	金五円五拾錢
三號型（十行）	金拾壹円
求職一號型	金壹円六拾五錢
姓名在社料	每一回 壹円拾錢增シ

姓名在社の御照會は午前九時より午後五時まで廣告部へ御問合せの事

一號型（三行）
雜務係及配達人用 年齡十六七歲 … 日本交通新聞社
手風琴（アコーデオン）イタリ製 希望者 電話本局（2）一二五一番へ
電話 … 中村

二號型（五行）
貸家 … 電（3）二〇一四番
女中さん入用 年齡二十一、二歲以上二十五歲まで本人來談の事　白雲莊ホテル

浪花館　二十三日ヨリ三日間　ニュース　文化映畫　大都會　羅生門
大陸劇場　二十三日ヨリ二十五日迄　日本ニュース　鉱壁の國防產業　西遊記　想ひ出の圓舞曲
京劇　十八日より　日本ニュース　文化映畫　逞ましき前進　或る女
城寶　十八日ヨリ二十四日マデ　逞しき前進　南太平洋海戰實況　或る女　ハワイ・マレー沖海戰豫告篇
和信映画館　十九日より二十五日迄　日本ニュース　笑ひの快速隊
東洋劇場　十一月二十三日、二十四日、二十五日　場所 府民館　山風　青春座
城南劇場　二十三日ヨリ五日間　日本ニュース　文化映畫　統劍術　バルカン電擊戰　母は死なず
中央劇場　二十三日ヨリ二十七日迄　日本ニュース　文化映畫　バルカン電擊戰　母は死なず

若劇　十八日ヨリ　ニュース　海の白衣　鞍馬天狗
喜樂館　十一月二十三日より　日本ニュース　潜水艦　山吹猫　西遊記
京日文化劇場　廿一日より廿五日まで　1日本紙の驚異　2ホームグラフ　3見えない氣流　4スパイ擊滅　5南氷洋　6日本ニュース
京日鍾路文化劇場　二十一日より二十五日　燃料と科學　家光と彥左　日本ニュース
朝日座　二十二日より　笑萬歲大會
明治座　十八日ヨリ　ニュース　海の白衣　鞍馬天狗
新富座　二十二日ヨリ上映　ニュース　文化映畫　楊子江　空征かば
桃花劇場　二十三日ヨリ　明け行く人生　主なき小舟